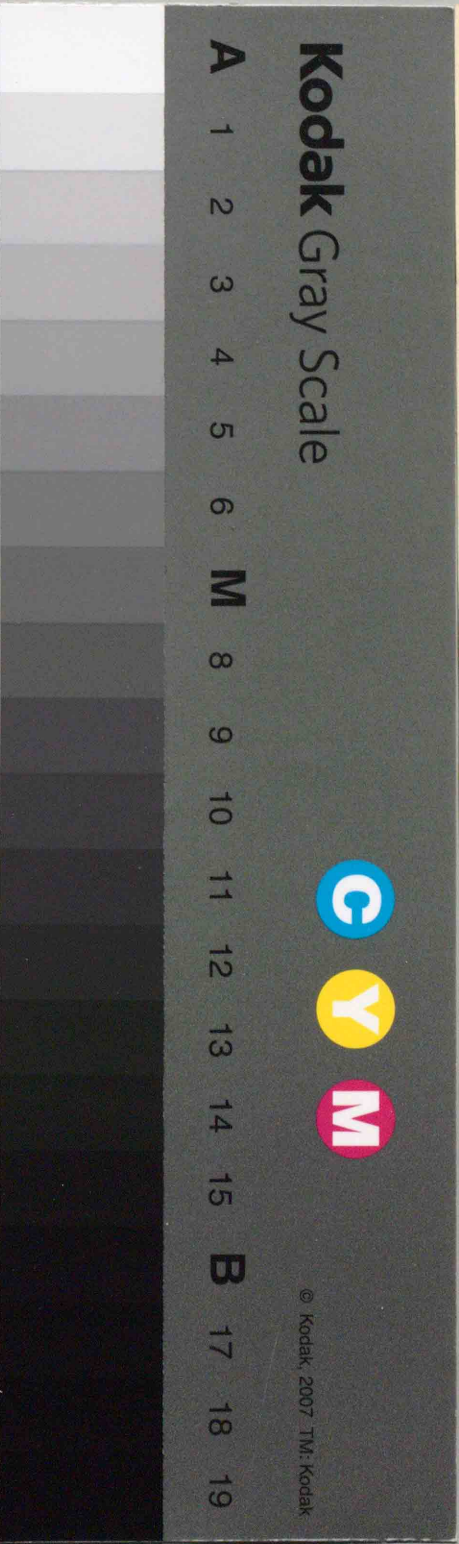
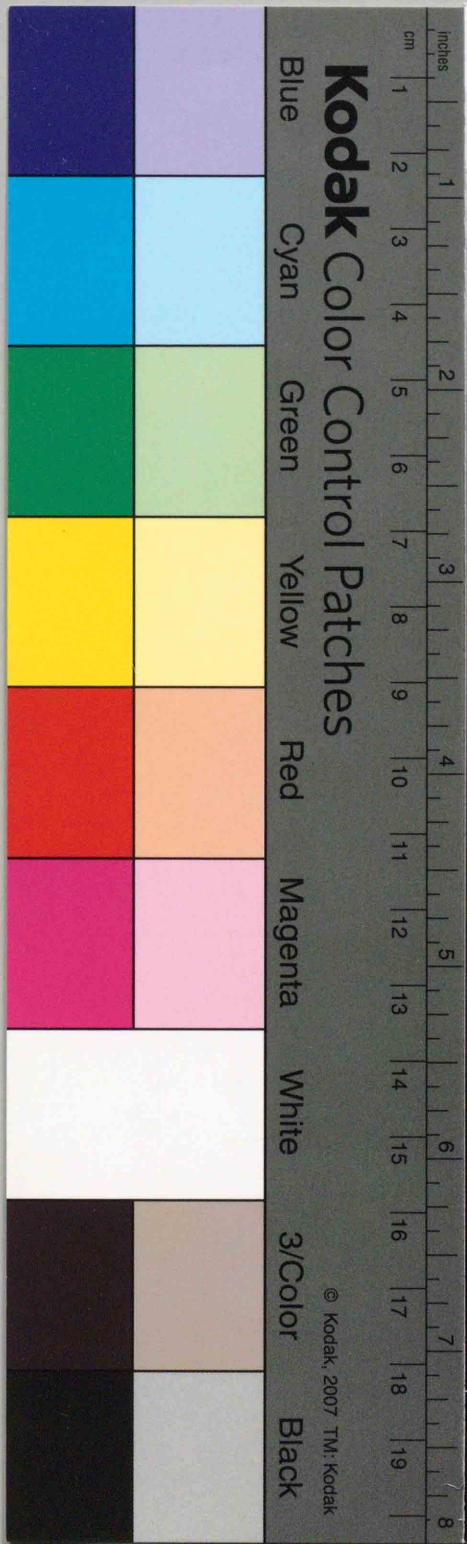


教科書文庫
4
291
32-1909
2000054757

子爵渡邊國武公開狀
六盟館編輯所編纂

網要
明治地理
日本

東京
合資
會社
六盟館藏版



43420

教科書文庫

4
291
32-1909
20000 54757



資料室
中央図書館

教科書文庫

4

291

32-1909

2000054757

375.9
Roll

子爵渡邊國武公開狀
六盟館編輯所編纂



広島大学図書

2000054757



綱要
明治地理
日本

東京

合資
會社
六盟館藏版



公 開 状

本著の主纂者守屋荒美雄君は世界的大日本の地理教科書を編纂すべき眼光と素養と熱誠とを併せ有す。宜なる哉。君の著作が現時教育界を風靡しつゝあることや。抑々地理書が、山嶽の高低、河川の長短、都邑の臚列等を以て、其の本體となさんか、是れ大國民教養の資となすには未だし矣。

帝國を世界の中心に置き、常識の養成と、實業的知識の發達とを主義綱領とする、真意義の活地理書は、予之を、守屋君其の人の辣腕に待たん。

予は爰に少しく語りしのみ。是れ其の多くを識者の公批明判に、任ぜんと欲すればなり。

子爵 渡 邊 國 武



自

序

思ひきや、予の主纂に係る地理教科書、數部二十餘冊が
悉く世の喝采を博せんとは、予に炯眼あるか、曰く否、予に
素養あるか、曰く否、予に熱誠あるか、曰く否。

是れ編輯所僚輩の補助協力、大あるものあればなり。是
れ滿天下の教官諸氏が、公明篤實なる、庇保翼贊を興へら
れたればなり。

予爵渡邊國武先生の、地理教科書に對する高見は、予の
常に拳々服膺する所、本書も亦其の團圓を脱せざりしと
信ず、謹で一本を予爵に捧ぐると同時に、江湖識者の、高教
を仰がんと欲するや切なり。

主纂者 守屋 荒美雄

例言

一 本書は、總論に於て、我が帝國の位置、其の他に關する、大體の觀念を略記し、次で關東などの各地方誌に及び、最後に結論と題し、世界一般の地文と我が地文とを對照せしめたり。蓋し此の結論は、外國の部に於ける結論、即ち世界一般の人文と、我が人文との對照と相待つべきものとす。

一 本書の編纂に對する、用意の一二を擧ぐれば、概ね左の如し。

- (甲) 小學地理を參照し、其の内容を漏脱せざらんことを期せり。
- (乙) 小學地理に比し、稍々程度を高くしたり。
- (丙) 挿繪挿圖を鮮明にし、且つ其の數を多くせり。就中、實業に關する統計圖は、地方廳名の上方又は左方に、産額の實數を記し、下方又は右方に、全國總産額に對する、百分比を記せり。
- (丁) 紙數を可成少くしたり。
- (戊) 文章を快活流暢ならしめ、以て學生の講讀を愉快ならしめたり。
- (己) 詩歌俳句を題頭又は本文に引用し、且つ其の出所を明かにせり。

(庚) 多く振假名を付せり、就中地名に就ては、發音の儘を地名の左側に付し、發音の儘と從來の音と相異なる場合には、從來の音をも右側に付し置けり。
 (辛) 都邑左側に、萬を單位として、人口數を記し、又河川の流程は、一里を單位とし、山嶽の高度は、メートルを單位として、其の左側に記したり。
 (壬) 常に帝國と世界との關係に注意し、且つ常識の養成に力めたり。
 (癸) 實業に關しては、甚大の注意を拂ひたり。

明治四十二年二月

編纂者一同 謹誌

要綱 明治地理 日本之部 目次

總論 一頁

第一章 關東地方 三頁
 國土位置地勢海洋氣候區劃
 位置地勢海岸氣候交通產業 東京府神奈川縣千葉縣埼玉縣群馬縣栃木縣
 茨城縣

第二章 奥羽地方 一二頁
 位置地勢海岸氣候交通產業 福島縣宮城縣岩手縣青森縣秋田縣山形縣

第三章 本州中部地方 一八頁
 位置地勢海岸氣候交通產物 靜岡縣山梨縣愛知縣岐阜縣長野縣新潟縣
 富山縣石川縣福井縣

第四章 近畿地方 三〇頁
 位置地勢氣候交通歷史 滋賀縣京都府奈良縣三重縣和歌山縣大阪府兵庫縣

第五章 中國地方四國地方 四一頁
 位置地勢海岸氣候交通產業 岡山縣廣島縣山口縣鳥取縣島根縣德島縣
 香川縣愛媛縣高知縣

第六章 九州地方 五〇頁
 位置地勢氣候交通產業 福岡縣大分縣佐賀縣長崎縣熊本縣宮崎縣
 鹿兒島縣沖繩縣

第七章 臺灣地方

位置・地勢・海岸・氣候・交通・産物・歴史・住民・處誌

五九

第八章 北海道

位置・地勢・海岸・氣候・交通・産物・歴史・處誌

六三

第九章 南樺太

位置・地勢・海岸・氣候・産物・歴史・住民・都邑

六七

結 論 地理上よ見たる世界之日本

六八

第一節 土地 第二節 地勢 附火山・地震

第三節 河湖 第四節 海岸

第五節 海流・潮汐 第六節 氣候

第七節 天産

要綱 明治地理 日本之部 目次 (終)

要綱 明治地理 (日本之部)

六盟館編輯所 編纂

總 論

本州 四萬五千方里
北州 三萬三千方里
南州 二萬九千方里
九州 一萬九千方里
四國 一萬四千方里
各島 一萬四千方里
日清戰役までは
積二萬四千方里な
下國の内数字は全
百分の比に對する

國土 國運・國威、あかねさす、旭日の昇るが如き、大日本帝國は、本州・四國・九州・臺灣・北州(北海道本島)の五大島と、南樺太と數千の島嶼とより成れる島國なり。幅は、廣き所すら百里に足らざれども、長さは一、千二百里に亙り、面積は、二萬九千方里に餘れり。こゝに、五千餘萬の人民、相睦みて、上に、萬世一系の天皇を戴けり。位置 國の東と南とは、廣き太平洋を隔て、南北アメリカ



五大島等之比較

山脈は樺太山系と日本崑崙山系とに分属す

カ洲と大洋洲とに向ひ、北と西とは、オホーツク海・日本海東支那海などを隔て、露西亞領シベリアと、韓清兩國とに向へり。
地勢 さなきだに、地形細長き上に、山脈中央を貫けるが故に、大なる河湖少なく、平野も亦よく開けず。國土、日本海面より、太平洋面に向ひ、弓の如く彎曲し、さも武國を示すに似たり。

海洋 北の海面は、冬季氷結し、濃霧船の行く手を遮ぎり日本海と臺灣の近海とは、波高く、瀬戸内海は、潮流急なる處多し。されど一般(夏期)に、航海安全にして、又漁業に便なり。沿岸は、出入頗る多く、國土三萬方里に足らざるに、海岸線は八千里に近し。是れ交通の便大にして、國の文明を促がす所以なり。海流の著しきは、日本(潮)對馬(日本海流)の二暖流と、寒

鯨鮪等は暖流に伴ひ、鰐虎昆布等は寒流にあり

臺灣南樺太以外の國數は八十五國なり

流なる千島海流となり。寒流と暖流とは、氣溫雨量さては海産物に及ぼす影響、少なからず。

氣候 北方は寒く、南方は暑けれども、一般に、溫和にして風光の明媚と共に、世界に誇り得べし。夏は、東南の風多くして、太平洋面に雨多く、冬は、西北の風多くして、日本海面に雨雪多し。又風の強きは、春と秋とにして、雨の多きは、梅雨期と右の強風期となり。

區劃 臺灣・南樺太の外を、古來、畿内・八道(東海・東山・北陸・山陰)に分ちしかど、今は行政上、一道廳・三府・四十三縣に分ち、府・縣の下に、郡・市・町・村などを置き、道廳の下に、支廳を置けり。本書は、本州を、關東・奧羽・本州中部・近畿・中國の五地方に分ち、之に四國・九州・臺灣・北海道・南樺太を加へて、十區域となせり。

第一章 關東地方

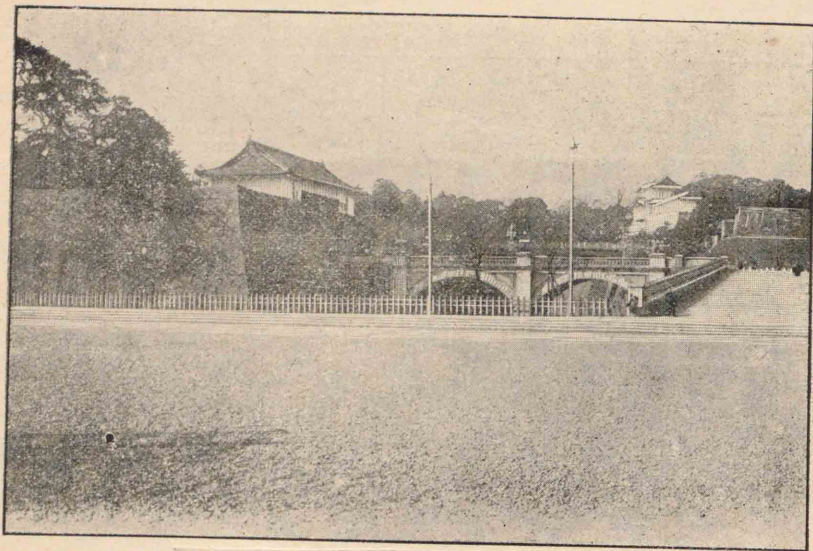
東海道の相模・武藏・安房・上野・下總・常陸・東山道の野

甘蔗 芭蕉の實に
 似て味甜瓜に似た
 り。鳳梨 松實に
 似て大きさに十餘
 倍す味は林檎に似
 たり。信天翁 翼
 黒く人を長れず
 海龜 長き半間重
 さ數十貫味よし
 △關東山脈富士火
 山脈

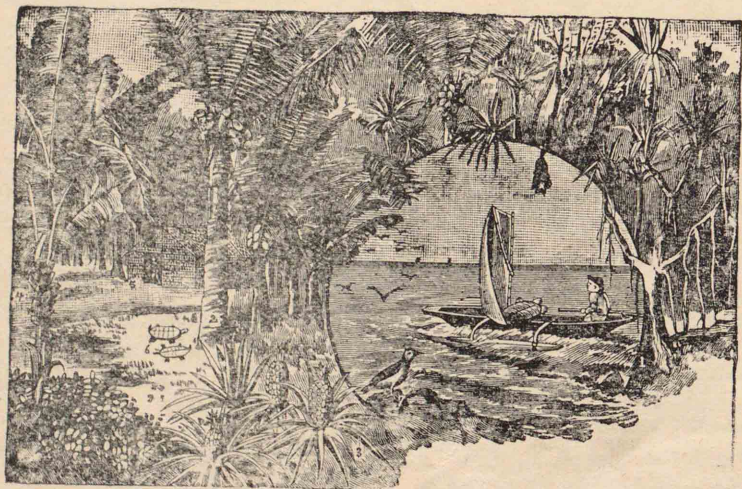
其の他

480 神奈川	800.0
輸出 530	

絹手巾至國産
 600萬圓



宮城 (て以をしりな造構の重二元は橋の方後) 城 宮
 りあ名の橋重二ほ尙今



小笠原の景 (屋家の入島5 蔗甘4 梨鳳梨3 椰子椰2 樹投林1) 景の原笠小
 翁天信7 龜海しめしせ臥倒6

を掠めて、山梨縣に入る。多摩川は、東京市民の飲料を供し、八王子は、絹織物の産多し。伊豆七島中の最大島、大島に、三原火山峙ち、八丈島に、八丈絹の産あり。小笠原諸島は、熱帯性の生物(甘蔗鳳梨甘蔗天信海龜)に富み、父島、最も大なり。

神奈川縣 北は、東京府に隣り。馬入川以西は、山地多く、三浦半島は、東京灣と相模灣とを分てり。

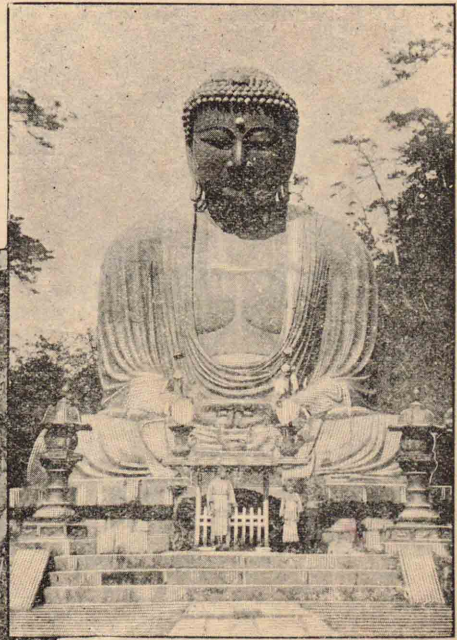
縣廳の所在地横濱市は、帝國第四の大都會にして、東京灣に臨む。帝國一の開港の事として、出船入船、數多し。市の漆器、陶器は、縣の北部の絹手巾と共に、輸出多く、又大山南麓地方の葉煙草と相並びて、縣の名産たり。

東京に起る、東海道鐵道は、横濱を過ぎ、支線を鎌倉横須賀方面に分ち、本線は、大磯國府津などの保養地を經、西北に進みて、静岡縣に入る。

鎌倉は、源頼朝が、幕府を開きし處にして、鶴岡八幡宮、鎌倉



箱根の寄木細工と蘆湖畔



鎌倉の長谷大佛と所謂良親王御窟

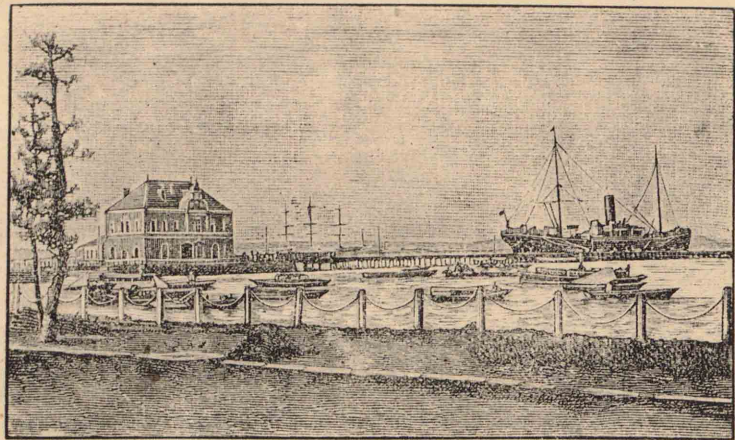
×アメリカ合衆國の提督ペリリ朝して互市を逼りし處なり

北部平地上に仰瞻沼漕ふ

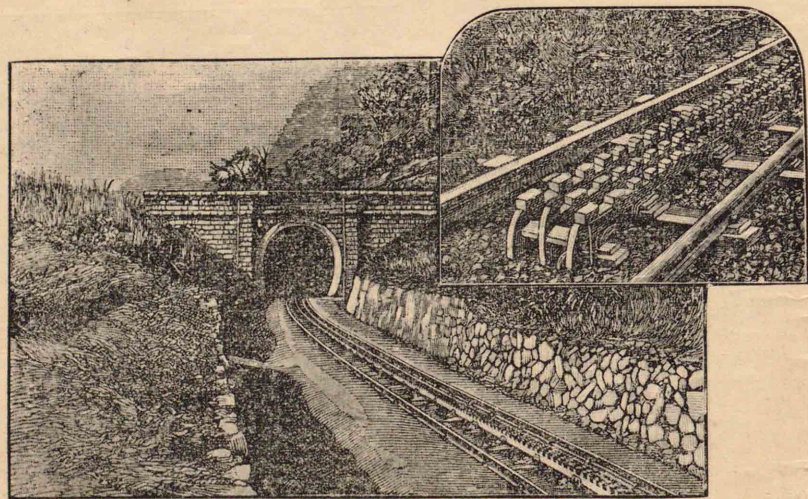
宮・建長寺・圓覺寺・長谷大佛・大塔宮御窟など、訪ぬべきもの多く、又西方の江島と共に、風景よろし。軍港横須賀市は、第一海軍鎮守府海軍機關學校造船所ありて、開國史に名高き浦賀と共に、造船盛なり。觀音岬と、對岸富津洲(千葉縣上總縣)とは、砲臺の設けありて、東京灣の要鎮たり。

國府津の西に、小田原あり。輕便鐵道を熱海(靜岡縣伊豆)に、電車を箱根に通ぜり。箱根の山中は、溫泉多く、蘆湖漕へて、保養の客多く、寄木細工の名産あり。昔、湖畔にありし關所は、則ち關東の稱の基なり。

千葉縣 利根・江戸・二川縣境を限りて、島をなせり。房總半島は、鋸山などの山地多きも、東面なる九十九里濱と、西岸なる木更津・北條・館山等との水産(鰯・鮒)は、北部平地の米・麥及び各地の醤油と共に、其の産多し。



横濱の棧橋附近(建物税關)



碓氷峠のアーチ式鐵道

×地學者伊能忠敬の生地

産地	28	15	12	11	9
千葉	千	兵	愛	香	福
葉	葉	庫	知	川	岡
	14.5	7.0	6.0	6.0	4.5

其の他

漁獲物全國
總額550萬圓

400	長崎	7.5
280	長崎	5.0
250	高知	4.5
250	三重	4.5
250	鹿児島	4.5
200	山口	4.0
200	兵庫	4.0
200	石川	4.0
190	愛媛	3.5

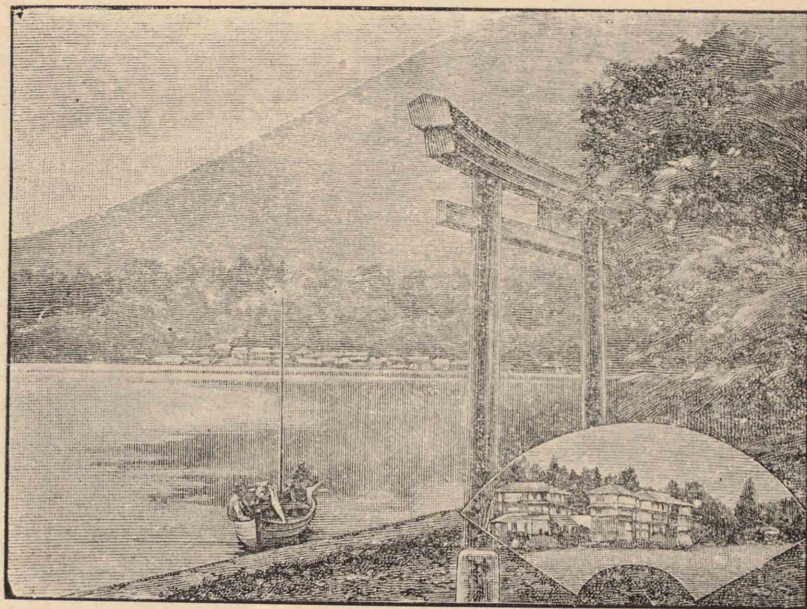
其の他

利根川は群馬縣に

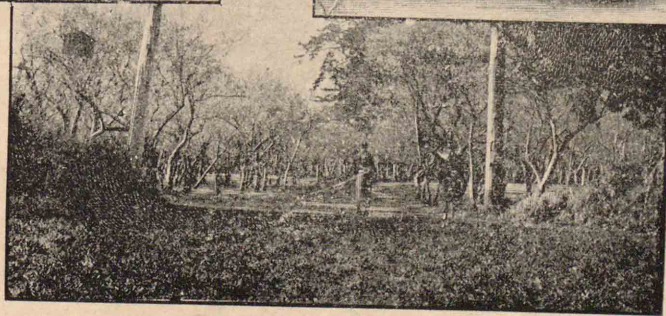
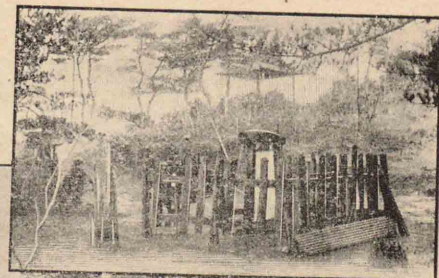
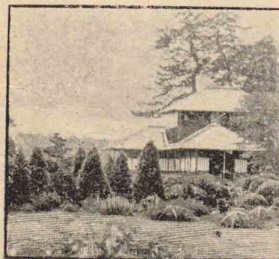
發し、銚子に於て太平洋に入る。長さ七十餘里、關東第一の大川にして、舟運灌漑の利多し。其の分流なる江戸川の畔に、味淋の産地流山、醤油の産地野田などあり。

東京に起る鐵道總武線は、江戸川を渡り、千葉、佐倉を経て、銚子に終る。房總線は、千葉に起りて、上總の東海岸に通じ、成田線は、佐倉に起り、不動堂を以て、名高き成田を経て、佐原に終れり。

千葉は、縣廳千葉醫學專門學校の所在地にして、佐倉は、印旛沼の南に位し、附近に、佐倉炭の産あり。利根川口の銚子は、銚子縮醬油、鱧の取引多し。東京通ひの小汽船は、こゝより佐原を過ぎ、江戸川を下りて、東京に至る。佐原は、清酒、醤油を産す。附近の香取神宮は、鹿島神宮(茨城縣北浦の東岸)と共に、有名の古



湖寺禪中と山体男



園公警常圖下及び方左圖上・址關來勿方右圖上

△關東山脈に屬す

社なり。

埼玉縣 西部は秩父絹を産する秩父山地なり。荒川（川隅の田）は是れより出て、東半の平野を潤し、麥の産額帝國に冠たり。

鐵道は、東京より來り、浦和を過ぎ、大宮に於て、奥州高崎二線に分る。其の高崎線に沿へる熊谷より、一鐵道西に赴き、大宮（秩父絹の集散地）に至らんとす。

甘藷を以て、名高き川越は、川越鐵道の起點なり。此處より縣廳の所在地浦和に至るまでは、木綿織（織子）の産多し。

群馬縣 埼玉縣の北に位し、東隣の栃木縣と共に、所謂兩毛の地なり。東南隅の外は、山又山にして、草津（白根）、伊香保（榛山）等に、温泉湧けり。赤城山、榛名山は、奇岩怪石に名高き妙義山と共に、上野の三山と稱へらる。本縣は、生絲・絹織物の産

産地	産額	百分比
埼玉	110	5.5
玉城	110	5.5
茨城	80	4.0
知庫	80	4.0
愛兵	80	4.0
庫葉	75	4.0

麥全國産 2000萬石
輸出 20万円
輸入 4350

多し。

高崎市は、縣廳の所在地なる前橋市と共に、繭・生絲の取引多く、又鐵道の中心なり。兩毛鐵道に沿へる桐生は、絹織物の産多し。

鐵道信越線と、上野線とは、高崎に起り、一はアプト式によりて、碓氷峠の隧道を過ぎ、一は製絲業地富岡の西に終れり。又高崎線は、埼玉縣を経て、高崎に來り、前橋に於て、兩毛線に接続す。

栃木縣 那珂川・鬼怒川等の潤せる、東南平地の葉煙草・大麻は、山地の杉材・薪炭と共に、其の産多し。

小山は、水戸・兩毛・奥州三鐵道の接続地なり。足利は、兩毛線に沿ひ、東京に、東武線を通じ、絹織物の産多し。宇都宮市は、縣廳、第十四師團司令部のある處。鐵道奥州線は、此處にて支線を日光に分ち、本線は、那須山を仰ぎつゝ、那須野を過ぎ

日本専産水
峠通リ終
タルトキ
アワツマニナ
トヤタリ給フ
×那須火山脈越後
山脈

その他

70 神奈川	60
85 鹿兒島	70
90 静岡	80
200 栃木	16.5

葉煙草全國産 1200萬貫

△阿武隈山脈

て、福島縣に入る。

日光は、東照宮(徳川家康を祀る)・家光廟など、建築・彫刻・善を盡し、美を盡せる上に、富士形の男體山麓に、中禪寺湖湛へ、其の水落ちて、華嚴瀧となるなど、内外人の歎賞するこそ、理りなれ。日光の西南足尾に、本邦第二の銅山あり。

茨城縣 栃木縣の東、千葉縣の北に位し、東は、鱈・鱚の漁獲多き、鹿島灘なり。北部の山地は、材木・茨城無煙炭・寒水石の産多く、南部の平野は、麥・豆・茶を産し、霞浦・北浦・港へ、筑波山峠

霞浦に沿へる土浦・石岡は、酒・醬油を産す。水戸市は、徳川三親藩の一なる、水戸家の舊城地にして、縣廳と、日本三公園の一なる、常磐公園とあり。那珂川に沿ひて、川口の湊に、小汽船を通じ、葉煙草の集散地なる太田に、鐵道を通ず。又結城・紬

▲吹く風をなごそ
の關と思へども道
なもせに散る山櫻の
(源義家)

結城木綿の取引多き結城に、水戸鐵道の便あり。

○東京に起る鐵道海岸線は千葉縣を掠め、土浦水戸を経て、福島縣に入る。
○縣境に吹く風を勿來關のありし處あり。

第二章 奥羽地方(東山道の磐城岩代陸前陸中陸奥羽前羽後)

六 福島縣(磐城の大部 岩代)

宮城縣(磐城の大部 陸前)

岩手縣(陸前と陸奥との大部 陸中)

青森縣(陸奥の大部)

秋田縣(陸奥の大部 羽後)

山形縣(羽後の大部 前部)

位置

古の出羽奥州の地にして、本州の東北部にあるが故に、一に東北地方と稱す。東は太平洋、西は日本海に臨み、北は津輕海峽を隔て、北州に向へり。地勢 中央山地、南北に走りて、諸川の分水界をなす。此の中央山地と、東部山地との間に、北上阿武隈二川流れて、仙臺平野開け、中央山地の西に、能代御物最上、即ち兩羽の三大川流る。海岸 斧形の下北半島は、津輕半島と共に、斧形の陸奥灣を挟み、牡鹿半島は

▲那須火山脈奥羽
分水嶺
△北上山脈阿武隈
山脈

百花一時に開くは
北州も本州中部地
方の山地も亦然り

石巻(他)灣を、男鹿半島は八郎潟を抱けり。氣候 海流の關係上、西岸は東岸に比して、氣溫高く、雨雪多し。一般に、春信遅れて、一時に來り、百花亂發の奇觀あり。交通 鐵道は、發達したれども、海運、未だ十分ならず。殊に、津輕海峽と、日本海とは、航海危し。産業 土地廣きも、人口少なくて、産業十分に發達せず。是れ近來、東北開發の聲、高き所以なり。一般に牧馬榮え、諸川の開ける平野には、米(概ね夏實)産多し。又南部は、養蠶・絹織盛なり。

△福島縣 本地方の南門なり。鐵道海岸線の通ずる、平附近には石炭、中村には相馬燒の産あり。

鐵道奥州線は、東部中央、兩山地間なる、阿武隈川の平地をたどり、白河郡

山、福島を経て、宮城縣に入る。

福島市は、縣廳の所在地にして、奥州・奥羽兩鐵道の分岐點

×阿武隈山脈

東北線

△會津蠶烟會津米の集散あり

鐵道奥州線は阿武隈川の北に於て海岸線に會す

×東北大學第二高等學校仙臺醫學專門學校あり

なり。此の地方は、養蠶榮え、繭生絲蠶卵紙の産多く、又羽二重の産地川俣、程近き處にあり。白河は、古の關址に近く、附近は、牧馬盛なり。郡山より、西に通ずる鐵道は、磐梯山を仰ぎ、猪苗代湖を望み、若松を過ぐ。若松市は、維新の籠城、殊に白虎隊の勇壯を以て名高く、附近に、會津塗、會津燒の産あり。

宮城縣 福島縣の北に於て、中央山地により、山形縣と、脊中合せをなすは、本縣なり。山地は、牧馬榮え、北上川より、西方にかけて、仙臺平野よく開け、仙臺米の産多し。鐵道奥州線此の平野をたどりて、岩手縣に入る。

北上川は、奥羽第一の大川にして、長さ七十里、岩手縣に發し、石巻港にて、石巻灣に注ぐ。牡鹿半島の西に、荻濱港、南に金山あり。金華山の沖合は、仙臺鮪の漁獲多し。

仙臺市は、東京を距ること九十里、奥羽第一の都會にして

仙臺

△産物
レンブマンリ
アブタン

△芭蕉の句と傳へらる

作樂堂
神

×北上山脈

×平泉附近に衣川の標址あり

△阿倍貞任の亡びし處

縣廳第二師團司令部のある處、伊達侯の舊城下にして、仙臺平埋木細工の名産あり。市の外港なる、鹽竈の前面は、松島灣にして、數多の小島に、千代萬代の松生ひ、覺えず、松島やあ、松島や松島やと歌はしむ。

岩手縣

宮城縣の北に位し、中央山地によりて、秋田縣と脊中合せをなす。府縣中、面積最も廣きも、人口最も稀薄なり。海岸は、水産に富み、出入多くして、宮古釜石の二港あり。釜石は、帝國第一の鐵山を控ゆ。

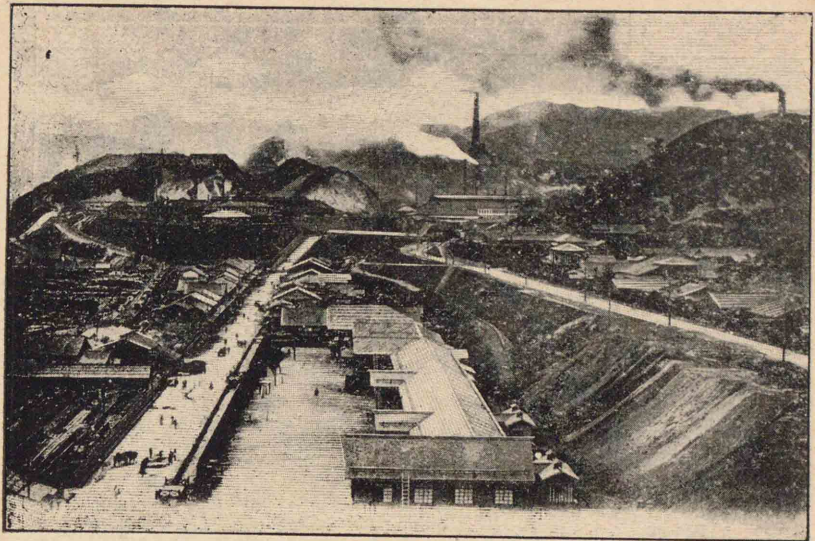
中央東部兩山地間、即ち北上馬淵二川の平野は、稗の産多く、鐵道奥州線之をたどり、一關、平泉、盛岡之に沿へり。平泉の中尊寺は、奥州藤原氏の全盛を偲ばしむ。盛岡市は、縣廳、高等農林學校のある處、南部鐵瓶の名産あり。岩手山を西北に仰ぎ、厨川



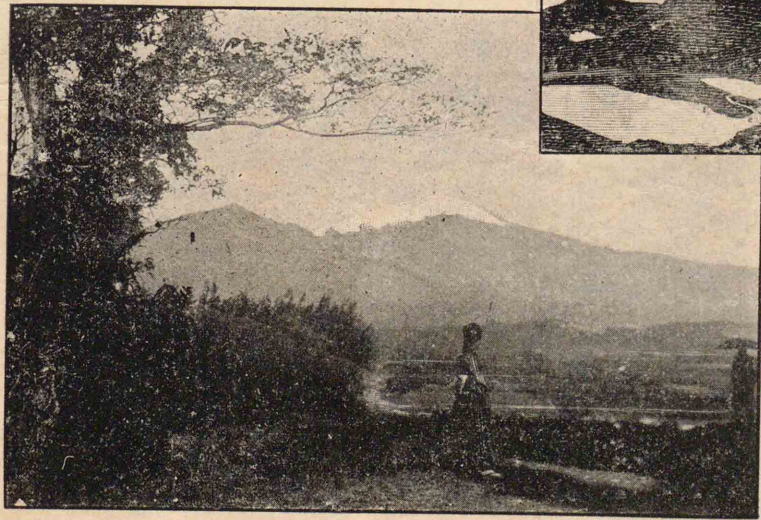
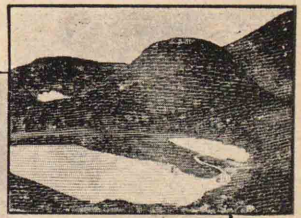
鐵至國産 260萬圓

220
岩手
83.5

四三〇萬圓
鐵鑛の精製
等に小産額あり
其の他、鳥糞、馬取



山 鑛 阪 小



景 遠 と 近 附 上 頂 の 山 海 鳥

銅産額
銅の二十分の一は秋田
本邦産額は世界産

銅全産額 3000萬圓	950 秋田 32.5	500 愛媛 17.5	500 栃木 17.0	150 岡山 5.0	400 他
輸 出 3000					

△芭蕉の句

銀全産額
380萬圓

180 秋田 49.0	45 鹿児島 12.0	28 兵庫 7.5	25 岐阜 7.0	20 鳥取 6.0	其他
本邦産額は世産額の十分の十四あり					

阪・院・納・阿・仁・尾・去・澤
(以上)等の鑛物は、其の産多く、中にも
銀銅の産額、全國第一にして、又小阪は、本邦首位の銅山なり。

鐵道奥羽線は、青森縣より來り、能代川に沿ひて下り、八郎瀨の東を過ぎ、御物川の平野をたどれり。土崎、秋田、院内之に沿ひ、能代に、支線に分てり。

能代川口の能代は、春慶塗を産し、杉の積出多し。

秋田市は、縣廳のある處、畝織・八丈縞・秋田蓑を産す。市の外港土崎は、秋田米を積出す。

山形縣 秋田縣と共に、古の出羽の地にして、縣境に、鳥海山(富士)峙てり。五月雨をあつめて早し、最上川は、日本三急流の一にして、羽黒山・月山・湯殿山(以上羽前)の山つゞきと、中央山地との間を流れ、西に折れて、日本海に注ぐ。下流地方の庄内平野は、米産多く、川口の酒田より、之を積出す。

山形市は、縣廳の所在地にして、米澤市は、絲織の産多し。鐵道奥羽線は、秋田縣を過ぎ來り、兩市を経て、福島に終れり。

第三章 本州中部地方

（東海道の尾張三河、遠江駿河、伊豆、東加賀能登、越中、越後、佐渡、陸道の若狹、越前）

九 靜岡縣 伊豆の大部 駿河の大部

山梨縣 （斐甲）

愛知縣 （三河）

岐阜縣 （美濃）

長野縣 （信濃）

富山縣 （越中）

石川縣 （能登）

福井縣 （越前）

×富士山脈南北に連なり、其の東側に越後山脈、關東山脈、須賀山脈、赤石山脈、飛騨山脈、木曾山脈などあり

位置 本州の中部を占め、北は日本海、南は太平洋に臨めり。地勢 中央部即ち飛驒・信濃地方は、土地高く、山嶽多くして、分水界をなし、信濃・神通二川は、日本海に、天龍・木曾二川は、太平洋に注げり。海岸 太平洋面に、波浪高き遠州灘あり。灘の東に、駿河灣・伊豆半島出入し、西に、伊勢海灣入し、渥美・知多二半島出でて、三河灣を擁す。日本海面には、能登半島斗出して、七尾・富山の二灣を掩へり。氣候 中部山地は、寒暑の差甚しく、太平洋面は、夏季に雨多く、日本海面は、冬季に雨

▲間歇温泉 駿河甲斐 武蔵上野 伊豆相模 常陸上野 下野但馬 外野 望むべし

雪多し。交通 太平洋面は、鐵道海運稍發達すれども、中部山地と、日本海面とは、交通不便なる處あり。産物 中部山地の生絲・木材、信濃川下流の越後平野と、木曾川下流の濃尾平野との米、最も著し。

靜岡縣

伊豆半島は、駿河灣の東を限り、熱海・修善寺に溫泉湧き、中部の天城山は、石材・木材を産し、南部に、伊豆節の名産あり。北部の三島、南岸の下田は、名邑なり。

東北境の富士山は、高さ一萬二千餘尺、實に、帝國一の名山にして、頂上は、四時、殆ど雪の消ゆることなく、白扇、倒に懸れるが如し。夏時登山せば、頂上の舊噴火口を見るべく、又十三州の山河、呼ばば、まさに應へんとするの感あり。廣き裾野の西南部（附近）にては、三楡（駿河半紙の原料）を植ゑ、又水力を

製茶全國産 700萬貫

200 靜岡 28.5	55 三重 7.5	40 京都 5.5	其他
-------------	-----------	-----------	----

内地消費 220 輸出 480

洋紙全國産 1,500萬圓

450 靜岡 31.5	320 東京 22.5	200 兵庫 14.0	200 大阪 13.5	30 熊本 6.0	其他
-------------	-------------	-------------	-------------	-----------	----

輸入 850

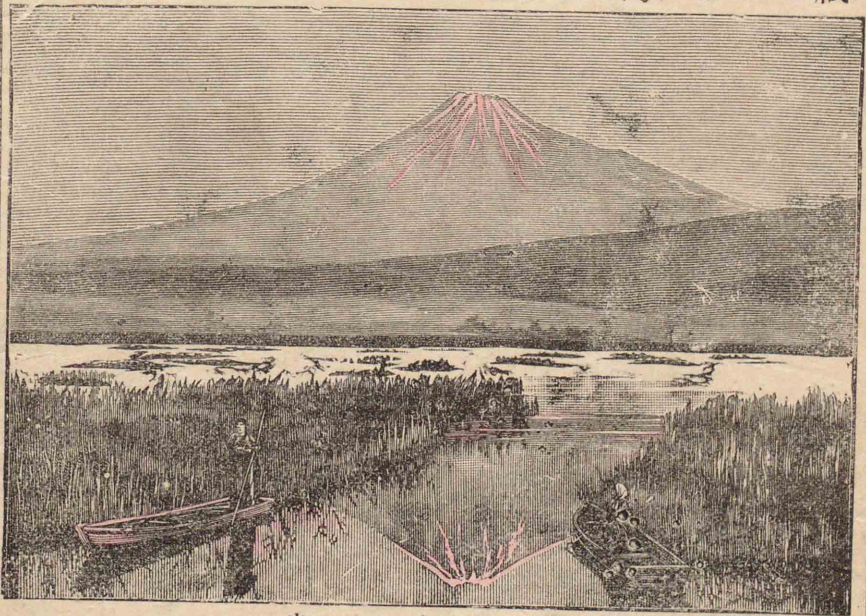
富士の根の麓を出て行く雲は足柄山の峰にうねり(賀茂直淵)田子の浦にうち出で、見れば真白に富士の高嶺に雪は降りつ(山部赤人)

×徳川家康が武田信玄に破られし處

利用して、駿河半紙・西洋紙を製す。

沼津・田子浦・三保・松原などは、富士山を仰ぎ、駿河灣に臨みて、景色よろし。三保松原は、茶の輸出多き、開港清水を抱き、久能山の東照宮に程近し。静岡市は縣廳のある處、静岡塗・竹細工・茶の産あり。濱松は、樂器(オルガン)・茶の取引多く、三方原の古戰場に程近し。

東海道鐵道は、神奈川縣を経て



富士山

×芭蕉の句と稱せらる

×水力は近く東京電燈會社に利用せらるべく、又猿橋を架する處あり

身延山には日蓮宗の總本山久遠寺あり

勝沼や馬子も葡萄なくひなから(馬琴)

來り、御殿場より南に下り、支線を伊豆に分ち、本線は、行々、富士(大井・天龍)の三大川や、濱名湖口を渡りて、愛知縣に入る。沼津清水・静岡・濱松など、之に沿へり。沿道は、富士の眺め絶えずして、けふも見えあすも見えけり、富士の山の感あり。又静岡以西は、茶園のよく開けたるを見る。

山梨縣

四境は、山又山にして、中に平地あり。此の平地は

天目山(武田勝頼最後の地)・笹子峠等の山つゞきにより、甲斐絹の産多き郡内と、甲府盆地との二となる。富士山の北麓は、湖水多き其の山中湖の水は、郡内を流れて、馬入川となる。甲府盆地の水は、富士川に集へり。富士川は、日本三急流の一にして、鰍澤以下、舟を行るべく、又身延詣での順路を開けり。

鐵道中央線は、神奈川縣を経て、郡内に來り、日本第一の笹子峠の長隧道をくゞり、甲府を経て、長野縣に入る。甲府市は、縣廳のある處、北方の金峰山は、水晶を産し、東方の勝沼は

矢矧川は矢作川とも作る

葡萄酒の産多し。

愛知縣 矢矧川以東は、山地多きも、以西は、濃尾平野の一部にして、農工商榮え、米・麥・綿絲・木綿(三河木綿)の産多し。

豊川下流の豊橋市は、第十五師團司令部のある處、豊川鐵道こゝに起りて

豊川の岸を溯れり。矢矧川中流の岡崎は、徳川氏創業の地なり。東海道鐵道

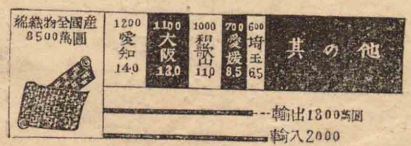
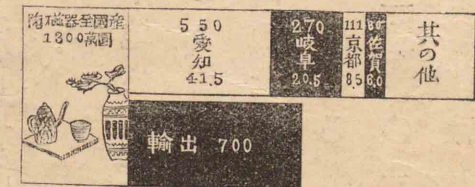
は、豊橋岡崎を過ぎ、古戰場桶狹間附近

に於て、武豊に支線を分ち、本線は、絞の名産地なる、有松附近を經、名古屋を過ぎて、岐阜縣に入る。開港武豊は、知多

半島の東岸にあり。附近に、木綿・酒酢・醬油の産あり。

開港名古屋市は、徳川三親藩の一なる、尾張大納言家の舊

×織田信長が今川義元を襲ひし地
鳴海も亦絞の名産地なり



×第八高等學校名古屋高等工業學校あり
熱田神宮は草薙劍を祀る

城地にして、東京を距ること約百里、縣廳第三師團司令部・熱田神宮あり。東海道關西中央の三鐵道相集ひ、近時、築港の大城したる、熱田を合したり。金の銚を以て有名なる、名古屋城の天主閣は、今や離宮となれり。綿絲・綿布・名古屋扇・時計・七寶燒の産あり。瀬戸は、市の東北に當り、中央鐵道に沿へる、多治見(岐阜)地方と共に、製陶業盛なり。

岐阜縣 東北部は、山地にして、殊に東、長野縣との境には

槍嶽・乗鞍嶽・御嶽等の高山あり。西南部は、濃尾平野の一部にして、美濃米の産多く、飛驒・長良・揖斐の諸川、木曾川に集へ

り。東海道鐵道は、名古屋を経て、岐阜に來り、大垣・關原を過ぎて、滋賀縣に入る。

岐阜市は、縣廳のある處、長良川に沿ひて、鵜飼に名高し。其の岐阜縮緬・岐阜提燈は、市の東北地方の美濃紙と共に、名産

*徳川家康が石田三成を破りし處

×一位細工飛騨織を産し木材を取引す

なり。關原は過ぎにし大戦を偲ばしめ、養老山の養老瀧に程近し。飛騨川を溯れば、飛騨に入る。銀銅の産多し。神通川上流の高山は、生絲・春慶塗等を産す。

長野縣

帝國第二の大縣にして、本州の略、中央に位し、八

縣十國に接す。土地頗る高くして、殊に縣境には、高山（淺間山、白根山、戸隠山、檜嶽、乗鞍嶽、御嶽、赤石山、八嶽）多し。犀（千曲二川）は、北して信濃川となり、天龍

木曾二川は、南流せり。是れ等の川筋に

は、細長き平野開けたり。地味・氣候、桑

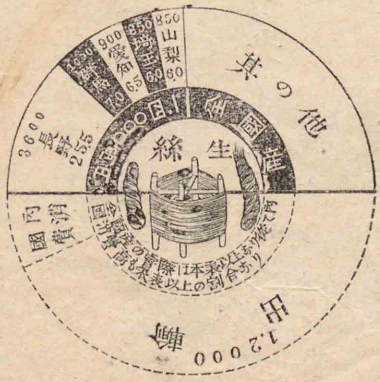
作・養蠶に適し、繭・生絲・蠶卵紙の産額、全

國に比なし。

鐵道信越線は、高崎に起り、碓氷峠の隧道を

過ぎて、本縣に來り、淺間山の畑を右手に眺め

上田・篠井・長野を経て、新潟縣直江津に終る。



篠井鐵道を中央東線の一部とみなすものあり

上田は、千曲川に沿ひ、繭の取引多し。長野市は、縣廳のある處、其の善光寺には、善男善女の詣づる者いと多し。市の南方に、川中島あり。犀・千曲二川に挟まれ、信玄・謙信の、龍虎相搏ちし古戰場なり。

篠井にて、篠井鐵道に乗り換ふれば、田毎の月の勝地なる、碓氷峠を左手に眺め、松本を経て、鹽尻に終る。中央東線は、諏訪湖畔を過ぎ來りて之に會し、以て中央西線の延長を待てり。

松本市は、犀川に沿ひ、養蠶盛なり。

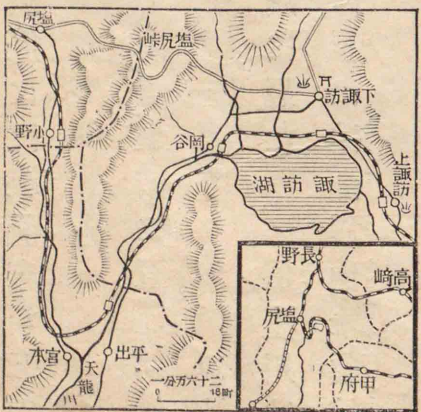
諏訪湖は、本邦屈指の製絲業

地（上諏訪、下諏訪）を控え、製氷と、氷滑りと

に名高し。其の水落ちて、天龍川と

なり、飯田之に沿へり。木曾山中

は、檜等の良材多く、木曾・天龍二川



近附湖訪諏

木曾にては駒岳最も高し、木曾川の筋に大小多数の岩あり、大岩上に浦島太郎を祀り

石油全産	545	新潟
550萬圓	99.5	新潟等

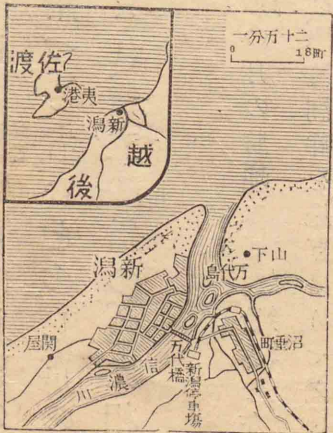
主産地	産額	百分比
新潟	240	5.5
湯庫岡知葉	206	4.5
新兵福慶千	180	4.0
	180	4.0
	150	3.5

は、之が運搬に利用せらる。木曾川筋には、寢覺床などの勝多し。

新潟縣 本邦第四の大縣にして、山地、東南に互れり。信濃阿賀二川は、之を破り來りて、越後平野を開けり。平野の越後米と、中越地方の石油とは、産額全國に冠たり。信濃川は、長さ百里許、日本第一の長流なり。海岸には、彌彦山、米山、時ちて、航海者の目標となる。

信濃川口の新潟市は、縣廳の所在地なり。古き開港なれども、土砂堆積し、且つ西北風を防ぐに不便なれば、市況振はず。

佐渡の開港夷は、金北山



近附潟新

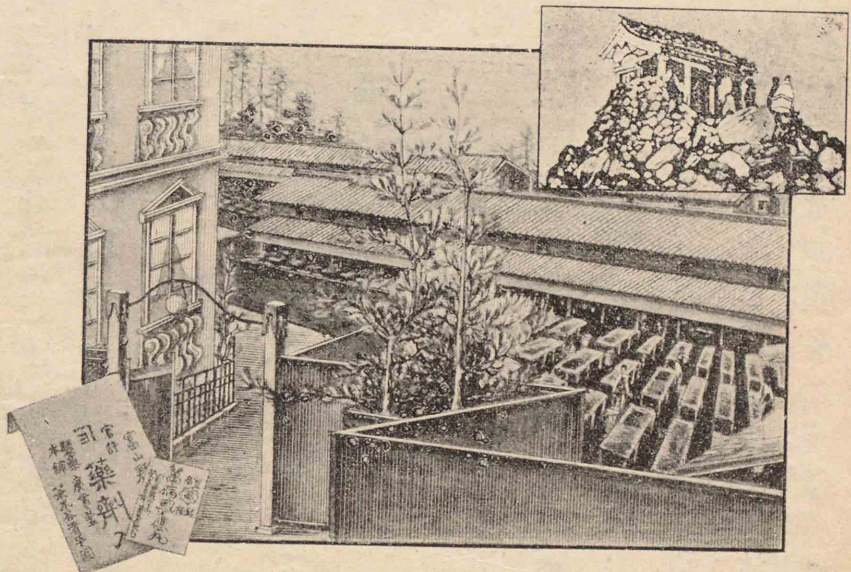
を負へるが故に、新潟の船舶は、こゝに、西北風の難を避く。金北山の西南に、相川あり。帝國屈指の金坑を控えて、市況賑はし。

北越鐵道は、新潟の川向ひに起り、長岡、柏崎を経て、直江津に終る。信越鐵道之につゞき、高田を過ぎ、右手に妙高山を眺めて、長野縣に入る。

長岡市は、信濃川に沿ひて、新潟に、小汽船と鐵道との便を有し、越後縮透綾の取引地なる。小千谷を川上に控え、附近に石油、越後米の産多くして、市況盛なり。柏崎は、製油業榮え直江津は、北越、信越兩鐵道の接續地なり。高田は、第十三師團司令部のある處、深雪を以て名高し。

富山縣 東南部の立山を始め、山々三方を圍み、庄(水射)神通等の諸川、北流して、富山灣に注ぐ。諸川の下流は、越中平野開けて、越中米の産多し。

×源義仲が平軍を破りし處なり



立山の頂上。富山市の製薬所と薬袋

親不知は、越中越後の國境なる崖下の礮路なり。今は崖上に新道開け、又鐵道富直線(直江津)敷設せられんとす。其富直線は、富山より魚類の取引多き魚津まで、既に通せり。富山市は、縣廳のある處、越中平野の中央に立ち、神通川に跨る。市の製薬は、國內を始め、清韓に行商せらる。鐵道北陸線は、富山に起り、高岡に於て、中越線と交り、俱利

加羅峠の隧道を経て、石川縣に入る。高岡市は、羽二重銅器漆器を産し、開港伏木は、中越鐵道の北端にあり。

石川縣 南部は山地多く、白山、岐阜縣上に峙てり。能登半島は、手首形を呈して、佐渡を招くに似たり。手甲の輪島は、輪島塗を産し、掌中の開港七尾は、日本海の要港なり。

北陸鐵道は、七尾附近に起れる、七尾線に會し、南西に走りて、福井縣に入る。金澤・小松・大聖寺は、之に沿ひ、共に羽二重九谷焼を産す。

△金澤市は、又漆器・銅器をも産し、北陸第一の都會にして、縣廳第九師團司令部兼六園(日本三公園)あり。大聖寺に近く、山中代の温泉あり。山中は漆器、山代は九谷焼を産す。福井縣 若狹は、若狹灣に臨みて、海岸の出入多く、若狹鰈若狹鯛の名世に高し。小濱港附近に、若狹塗の産あり。

△第四高等學校金澤醫學專門學校あり

△金崎宮は恒長尊
長兩親王を祀れり

老孫宮
三ノ宮

越前には、日野川ありて、足羽川を合し、九頭龍川に入る。是れ等の川筋は、福井武生を始め、羽二重奉書紬の産多く、又紙(鳥子紙奉書紙等)麻蚊帳を産する處あり。福井市は、縣廳のある處、其の藤島神社は、新田義貞を祀れり。北陸鐵道は、福井武生・敦賀を経て、滋賀縣に入れり。敦賀灣内の敦賀は、日本海の良港にして、浦鹽斯德(ストラツク)との間に、汽船往復す。其の金崎に、金崎宮あり。

絹織物全産 9500萬圓	2200 福井 23.0	1500 京都 15.5	1200 石川 13.0	1000 群馬 10.0	500 福島 5.5	其他
輸出 4200			内地消費 5300			
輸出は羽二重絹手巾を主とす						

第四章 近畿地方

(畿内の山城、大和、河内、和泉、攝津、東海道の伊賀、伊勢、志摩、東山道の近江、山陰道の丹波、丹後、但馬、南海道の紀伊、淡路、山陽道の播磨)

- 滋賀縣(近江) 京都府(山城、丹波、丹後) 奈良縣(大和) 三重縣(伊賀、伊勢、志摩)
- 和歌山縣(紀伊の大部) 大阪府(河内、和泉、攝津の東半部) 兵庫縣(攝津の西半部、丹波の西部、但馬、播磨、淡路)

位置 北は、日本海に臨み、南は、半島となりて、太平洋に出で、其の東側に伊勢海、西側に大阪灣、深く入れり。 **地勢** 南

部と北部とは、山多けれども、中部には、淀、大和の二川流れて、近畿平野よく開けたり。此の平野は、近江山城、大阪、奈良の四平野より成り、交通の便、農商工の發達、人口の稠密、關東平野に次ぐ。 **氣候** 南、半島部は、高温にして、雨量多く、北部は、冬季に雨雪多し。中部は、寒暑の差甚しきも、亦保養に適する海岸あり。 **交通** 近畿平野は、鐵道と河川との便多く、大阪、神戸は、航路の中心をなす。 **歴史** 神武天皇以降、明治の初年に至るまで、二千五百餘年間、帝都のおはし、地方なれば、昔を偲ぶべき、名所、故蹟、數多し。

滋賀縣 山々、四境を繞り、中央に、琵琶湖あり。湖は、周回六十里、實に帝國一の大湖にして、源五郎、鮎等の魚類に富み、汽船も往來す。湖水出でて、勢多川となり、行々、宇治川となり、淀川となる。比良岳の暮雪など、所謂近江八景は、湖の遠近に

×瀬田夕照粟津晴嵐
矢走歸帆唐崎夜雨
堅田落雁石山秋月
三井晚鐘比良暮雪

△秀吉が柴田勝家を破りし處にして加藤清正などの七名將功名を揚げたり

×東海汽船と湖上製麻の便あり

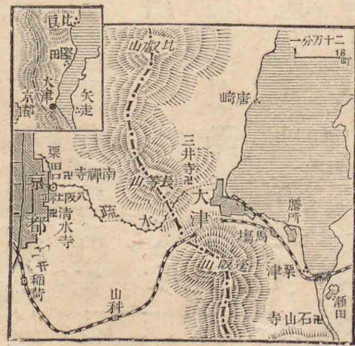
あり。湖岸の近江平野は、江州米・麻・菜種の産多し。

北陸鐵道は、福井縣を経て來り、古戰場賤岳を右手に眺め濱縮緬の産地、長濱を経て、米原に終る。東海道鐵道は、伊吹山の南麓を過ぎ來りて、之に接續し、彦根や、草津や、逢阪山、隧道などを經て、京都府に入る。彦根は、近

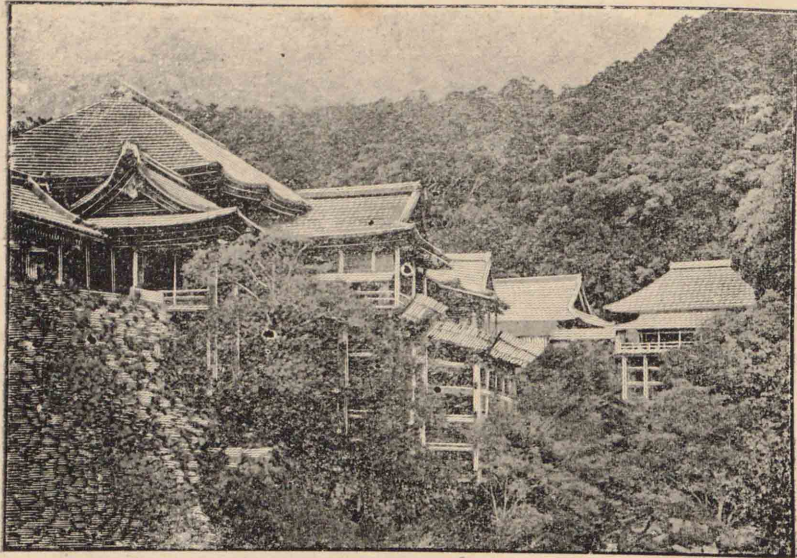
江鐵道の起點にして、有名なる公園あり。草津は、鐵道草津線の起點なり。

大津市は、縣廳のある處、琵琶湖の西南岸にあり。疏水は、市の北部に起り、三井寺(圍城)を仰ぎつゝ、長等山の隧道に入り、京都に至りて、賀茂川に入る。三井寺と共に、有名なり。

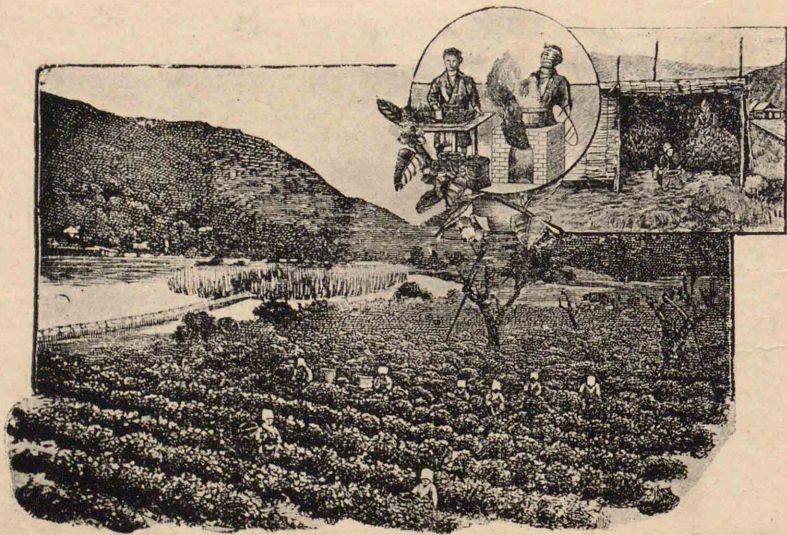
京都府 西北部は山多く、由良川、其の間を流れて、日本海



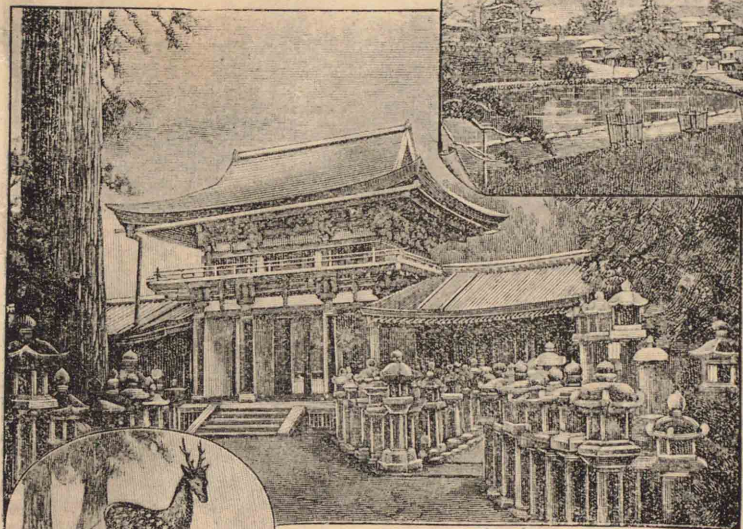
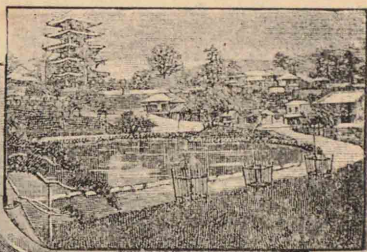
大津附近



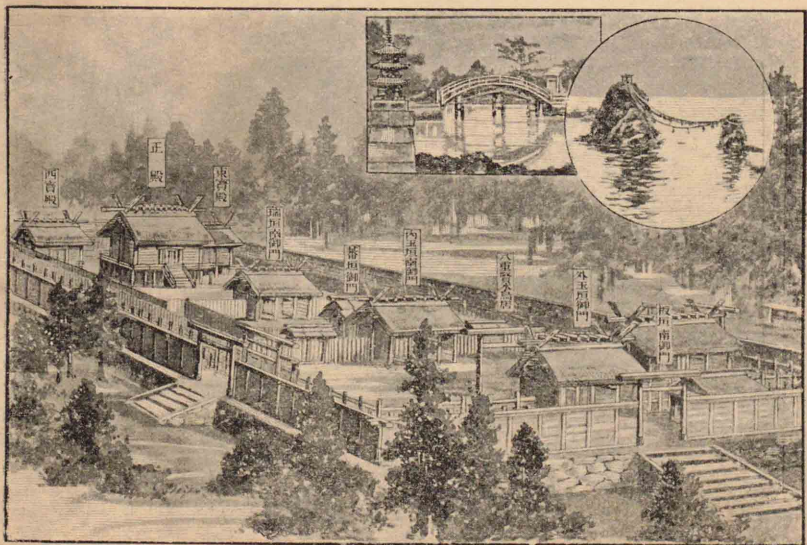
清水寺



製茶の狀と宇治河畔の茶摘み(上圖右に掩ひるは)露玉に製す茶樹



社神日春と畔湖澤猿の良奈



内境の宮内・山熊朝・浦見二

×さして行く笠置
の山を下に降り
あめがなほは
れがもなし(後醍
醐天皇)

京都の主要建築物

京都御所 二條御所
京都府 京都府立第一高等学校
京都府 京都府立第二高等学校
京都府 京都府立第三高等学校
京都府 京都府立第四高等学校
京都府 京都府立第五高等学校
京都府 京都府立第六高等学校
京都府 京都府立第七高等学校
京都府 京都府立第八高等学校
京都府 京都府立第九高等学校
京都府 京都府立第十高等学校
京都府 京都府立第十一高等学校
京都府 京都府立第十二高等学校
京都府 京都府立第十三高等学校
京都府 京都府立第十四高等学校
京都府 京都府立第十五高等学校
京都府 京都府立第十六高等学校
京都府 京都府立第十七高等学校
京都府 京都府立第十八高等学校
京都府 京都府立第十九高等学校
京都府 京都府立第二十高等学校
京都府 京都府立第二十一高等学校
京都府 京都府立第二十二高等学校
京都府 京都府立第二十三高等学校
京都府 京都府立第二十四高等学校
京都府 京都府立第二十五高等学校
京都府 京都府立第二十六高等学校
京都府 京都府立第二十七高等学校
京都府 京都府立第二十八高等学校
京都府 京都府立第二十九高等学校
京都府 京都府立第三十高等学校
京都府 京都府立第三十一高等学校
京都府 京都府立第三十二高等学校
京都府 京都府立第三十三高等学校
京都府 京都府立第三十四高等学校
京都府 京都府立第三十五高等学校
京都府 京都府立第三十六高等学校
京都府 京都府立第三十七高等学校
京都府 京都府立第三十八高等学校
京都府 京都府立第三十九高等学校
京都府 京都府立第四十高等学校
京都府 京都府立第四十一高等学校
京都府 京都府立第四十二高等学校
京都府 京都府立第四十三高等学校
京都府 京都府立第四十四高等学校
京都府 京都府立第四十五高等学校
京都府 京都府立第四十六高等学校
京都府 京都府立第四十七高等学校
京都府 京都府立第四十八高等学校
京都府 京都府立第四十九高等学校
京都府 京都府立第五十高等学校
京都府 京都府立第五十一高等学校
京都府 京都府立第五十二高等学校
京都府 京都府立第五十三高等学校
京都府 京都府立第五十四高等学校
京都府 京都府立第五十五高等学校
京都府 京都府立第五十六高等学校
京都府 京都府立第五十七高等学校
京都府 京都府立第五十八高等学校
京都府 京都府立第五十九高等学校
京都府 京都府立第六十高等学校
京都府 京都府立第六十一高等学校
京都府 京都府立第六十二高等学校
京都府 京都府立第六十三高等学校
京都府 京都府立第六十四高等学校
京都府 京都府立第六十五高等学校
京都府 京都府立第六十六高等学校
京都府 京都府立第六十七高等学校
京都府 京都府立第六十八高等学校
京都府 京都府立第六十九高等学校
京都府 京都府立第七十高等学校
京都府 京都府立第七十一高等学校
京都府 京都府立第七十二高等学校
京都府 京都府立第七十三高等学校
京都府 京都府立第七十四高等学校
京都府 京都府立第七十五高等学校
京都府 京都府立第七十六高等学校
京都府 京都府立第七十七高等学校
京都府 京都府立第七十八高等学校
京都府 京都府立第七十九高等学校
京都府 京都府立第八十高等学校
京都府 京都府立第八十一高等学校
京都府 京都府立第八十二高等学校
京都府 京都府立第八十三高等学校
京都府 京都府立第八十四高等学校
京都府 京都府立第八十五高等学校
京都府 京都府立第八十六高等学校
京都府 京都府立第八十七高等学校
京都府 京都府立第八十八高等学校
京都府 京都府立第八十九高等学校
京都府 京都府立第九十高等学校
京都府 京都府立第九十一高等学校
京都府 京都府立第九十二高等学校
京都府 京都府立第九十三高等学校
京都府 京都府立第九十四高等学校
京都府 京都府立第九十五高等学校
京都府 京都府立第九十六高等学校
京都府 京都府立第九十七高等学校
京都府 京都府立第九十八高等学校
京都府 京都府立第九十九高等学校
京都府 京都府立第一百高等学校

△綾錦金襴綴子等

京都の名古屋と共
に團扇子の産多
く伏見と共に人形
を産す

に入る。東南部は、山城平野にして、賀茂・桂の合流、こゝに、宇治川と會して、淀川となる。木津川も亦、月瀬カヅラ（奈良縣下）や、さして行く笠置山附近を過ぎ來りて、淀川に入れり。

東海道鐵道は、京都に來り、西南に走りて、大阪府に入る。又奈良京都二線は、京都に起り、一は、伏見宇治を経て、奈良縣に入り、一は、丹波の東部に通ず。

京都市は、賀茂川に跨り、東京を距ること百四十里、帝國第三の都會にして、町筋いと正し。桓武天皇以降、一千餘年間の帝都たりし上に、二百年間、足利幕府のありしことよて、名所舊蹟、神社、佛閣、數多く、又春は、嵐山の櫻、秋は、高雄山の紅葉をめぐべし。彼の疏水は、交通を助け、工業に用ゐらる。市の名産は、西陣織・友禪染・陶器清水焼・京塗・銅器等なり。市の南つゞきに、伏見あり。宇治川に沿ひて、大阪との間に、汽船往來す。宇治は、平等院のある處、附近に、宇治茶の産多し。

舞鶴灣は東西二と
なる西に舞鶴東に
新舞鶴あり
天橋立を眺むるは
其の北方の成相山
なよしとす

これはくとはば
り花の吉野山
(安原真室)

大阪に起る阪鶴鐵道は、由良川に沿へる、福知山に來り、新舞鶴に終る。軍港新舞鶴は、第四海軍鎮守府のある處西北に開港宮津を控ゆ。宮津の彼方に、約一里の白砂青松海中に互れり。横より之を眺むれば、さも長橋に似たり。是れ日本三景の一なる、天橋立なり。峯山附近は、丹後縮緬の産多し。奈良縣 大和川の潤せる、奈良平野の外は、山多し。殊に南部には、山上岳、大臺原山等ありて、杉など茂れり。乃ち山上岳より發する十津川(熊野川の上流)、大臺原山より出づる吉野川(紀川の上流)は、木材運搬の要路たり。吉野川南岸の吉野山は、南朝四代の宮居し給ひし處、春は、櫻花滿山を埋めて、これはくとはばかりなり。

關西鐵道の幹線は、京都府を経て來り、奈良郡山法隆寺を経て、大阪府に入る。京都より來れる奈良線は、奈良にて之に交り、櫻井に終る。尙ほ之に接

續するものは、終に和歌山縣に入る。

天の原ふりさけ見
れば春日なる三笠
の山に出でし月
も (阿倍仲麻呂)
道とへば (阿倍仲麻呂)
はしよ御垣よと昔
を語る奈良の里人
正倉院は奈良朝時
代の美術工藝品を
納む法隆寺は聖
徳太子之を建立す
談山神社は藤原鎌
足なまつる

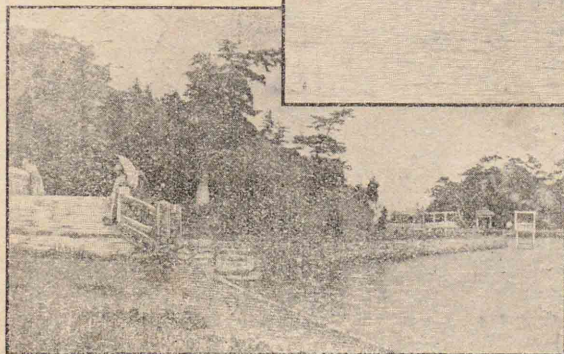
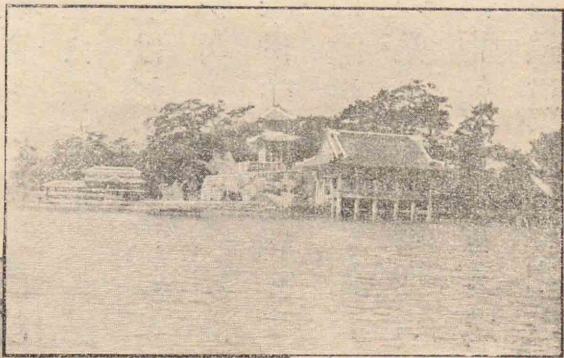
四日市の西南に日
本武尊の薨去し給
ひし能褒野あり

奈良市は、奈良朝の舊都にして、春日三笠の二山、市東に立ち、春日神社、東大寺、興福寺などの社寺多く、又縣廳、正倉院、博物館あり。筆墨根來塗を名産とす。郡山附近は、大和緋の産多く、法隆寺には、同名の古刹あり。櫻井は、畝傍山御陵、橿原神宮及び多武峯の談山神社に程近し。三重縣 西、奈良縣との境は、杉多き山地にして、東、伊勢海の海岸は、伊勢平野開けて、伊勢米、茶、菜種の産多し。南、熊野灘は、鯨、鯨、鳥羽港の近海は、眞珠、伊勢鰯を産して、水産額亦多し。名古屋、大阪を連ぬる、關西鐵道は、桑名、四日市、上野を経て、京都府に入る。揖斐川口の桑名は、米の取引多く、時雨蛤の名産あり。開港四日市市は、萬古燒綿絲を産す。津市は、縣廳のある處、關西鐵道の支線來れり。こゝにて、參

宮鐵道に乗り換へば、宇治山田市に達して、宇治の内宮、山田の外宮に詣で、又朝熊山・二見浦の勝をも探るべし。

和歌山縣 近畿半島の

大部を占め、氣温高く、雨多くして、木材に富み、古より木の國の名あり。三重縣との境を流る、熊野川は、奈良縣より來りて、木材の運搬多し。川口の新宮は、木材の取引多く、那智瀧に程近し。關西鐵道の一線は、木材の運搬多き



和歌浦

蜜柑は主に有田川の北岸に産し、川口より之を積出す

大阪は京都又は神戸を距ること約十里、大阪高等工業學校、大阪高等商業學校、大阪控訴院あり

漆器至國産 620萬圓	100 和歌山 15.0	60 和歌山 10.0	60 石川 9.0	45 福島 8.5	45 京畿 8.5	其他
	1.5 輸					

紀川と共に、奈良縣より並び下りて、和歌山に達す。中途より、高野山の金剛峰寺に詣づべし。紀川々口の和歌山市は、徳川三親藩の一なる、紀州家の舊城下にして、縣廳のある處、大阪に、南海鐵道の便あり。木材綿フランネルの取引多く、和歌浦と、漆器の産地なる黒江とに、程近し。有田川の附近は、紀州蜜柑の本場なり。

大阪府 形、小船に似て、大阪灣に沿へり。北東

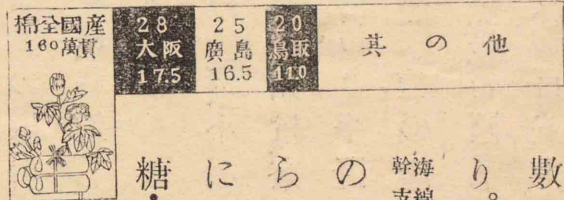
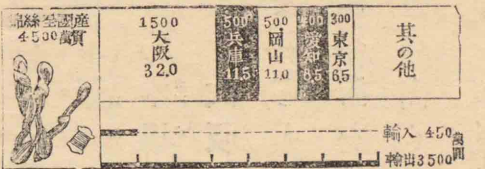
南は、山地なれども、大和川は、奈良縣より、淀川は、京都府より來りて、大阪平野を開けり。平野の東部は、綿作盛にして、河内木綿、古より名高く、又菜種の産多し。

大阪市は、人口約百萬、帝國第二の都會にして、第三の開港なり。東京を距ること、約百五十里、堀河、縱横に通じて、橋梁の

×聖徳太子の建立

天王寺などあり。其の大阪城は、豊臣秀吉の築造に係り、第四師團司令部を置かる。

大阪和歌山を連ぬる、南海鐵道は、堺岸和田を過ぐ。其の左窓に見ゆる金剛山は、東北境の櫻井、大阪の東北なる四條畷

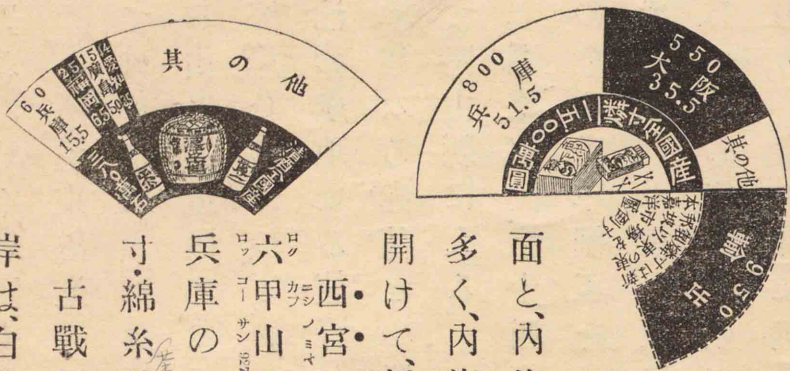


造幣局・天満天神・高津神社

×足利幕府の頃は極めて盛なりし

×東京を距ること約百六十里神戸高船所あり

△源義經が平氏を破りし處淡路島やよ千島のなく聲にいく夜寝さむ須磨の關(平兼昌)守



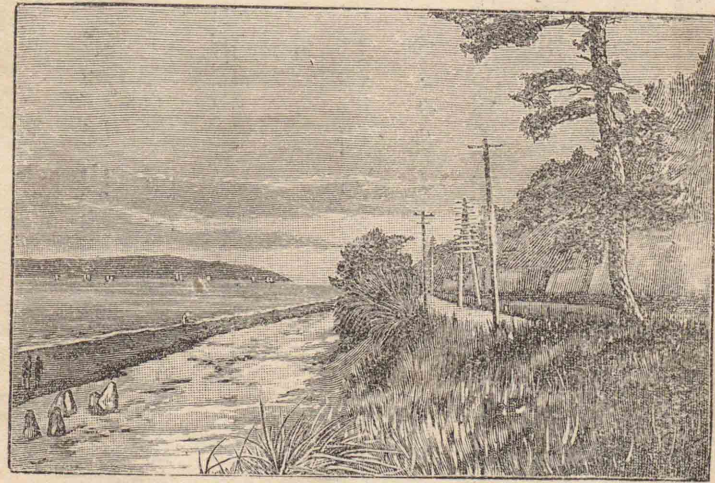
と共に、楠氏の忠烈を仰がしむ。堺市は、清酒・段通・刃物を産し、池田は、阪鶴鐵道に沿ひ、酒炭を産す。

兵庫縣 中部に山地ありて、日本海面と、内海面とに分る。日本海面は、神戸牛の牧畜多く、内海面は、加古川・市川等の下流に、播磨平野開けて、播州米の産多し。

西宮地方は、灘と稱し、清酒の産多し。其の西北六甲山の北麓に、有馬温泉あり。神戸市は、神戸兵庫の二部より成り、帝國第二の開港にして、燐寸・綿糸を産し、縣廳湊川神社あり。古戰場一谷に程近き、須磨・舞子・明石地方の海岸は、白砂青松遠く連り、前に淡路島を控えて、風

景よろしく、氣候も亦、保養に適す。鐵道東海道線は、西宮を経て、神戸に終る。神戸下關を連ぬる山陽鐵道は、之につゞき、右の海岸をめぐり、姫路に赴き、醬油の産地なる龍野と、赤穂鹽の本場なる赤穂との附近を過ぎ、岡山縣に入る。

姫路市は、第十四師團司令部のある處、革細工を産す。鐵道市の南方より來り、更に市川に沿ひて北し、銀銅の産多き、生野を経て、朝來川の中流地方に終り。朝來川に沿ひて、柳行李の産地豊岡と、温泉地城崎と



舞子沼

×八鹿

縣九 岡山縣 美作備前備中 德島縣 阿波

廣島縣 備後安藝 香川縣 讃岐

愛媛縣 伊豫

高知縣 土佐

第五章 中國地方

山口縣 周防長門

鳥取縣 因幡

島根縣 出雲石見隱岐

四國地方 南海道の阿波讃岐伊豫土佐

あり。又支流に沿へる出石は、出石焼の産地なり。靴形の淡路島は、大阪灣と播磨灘との間に位し。他の陸地に逼りて、明石・鳴門・由良の三海峡を挾めり。由良海峡は、大阪灣の口をなし、砲臺を設く。其の西北岸に、洲本あり。

×中國山脈白山火
山脈 四國山脈

ほのふと、明石の浦の朝霧に島々く、れ行く船をしを思ふ、
(柿本人丸)

位置 北は日本海、南は太平洋に臨み、瀬戸内海を以て、兩地方に分る。地勢 さなきだに、幅狭き兩地方は、共に山地によりて、南北兩面に分るゝが故に、大川平野少なし。海岸日本海面には、島根半島と隱岐群島、太平洋面には、室戸足摺二岬と土佐灣とあるのみ。獨り、瀬戸内海面は、岬崎港灣多く、又數多の島嶼ありて、眞に、島かくれ行く船をしを思ふの景あり。

×雨少なきは中國四國近畿九州に隔たられて外海と隔たるも故なり

△第六高等學校岡山醫學專門學校あり

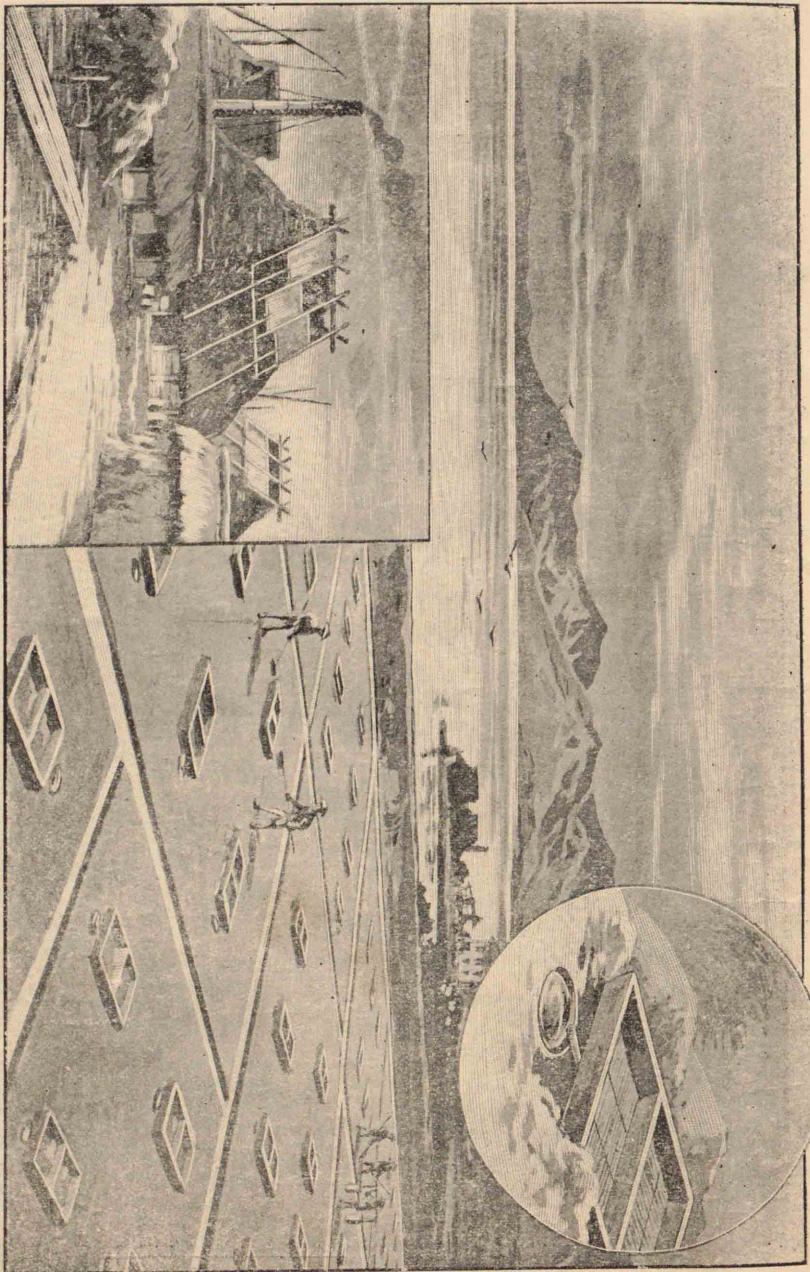
り。氣候 太平洋面は、高温にして、雨量頗る多く日本海面は、冬季に雨雪多し。瀬戸内海面は、晴天、打ちつゞきて、雨量少なく、且つ海岸に、遠淺多きが故に、十州（播磨・備前・備中・備後・安藝・伊豫）の鹽田開けたり。交通 鐵道・海運共に、瀬戸内海面は、よく發達せるも、日本海・太平洋兩面は、然らず。産業 瀬戸内海の製鹽 諸縣の漁業、中國地方の牧牛は、特に有名なり。

主産地	産額	百分比
兵香山岡徳	6.0	16.0
庫川口山島	12.0	12.0
	2.0	1.5
	9.0	9.0
	8.0	8.0

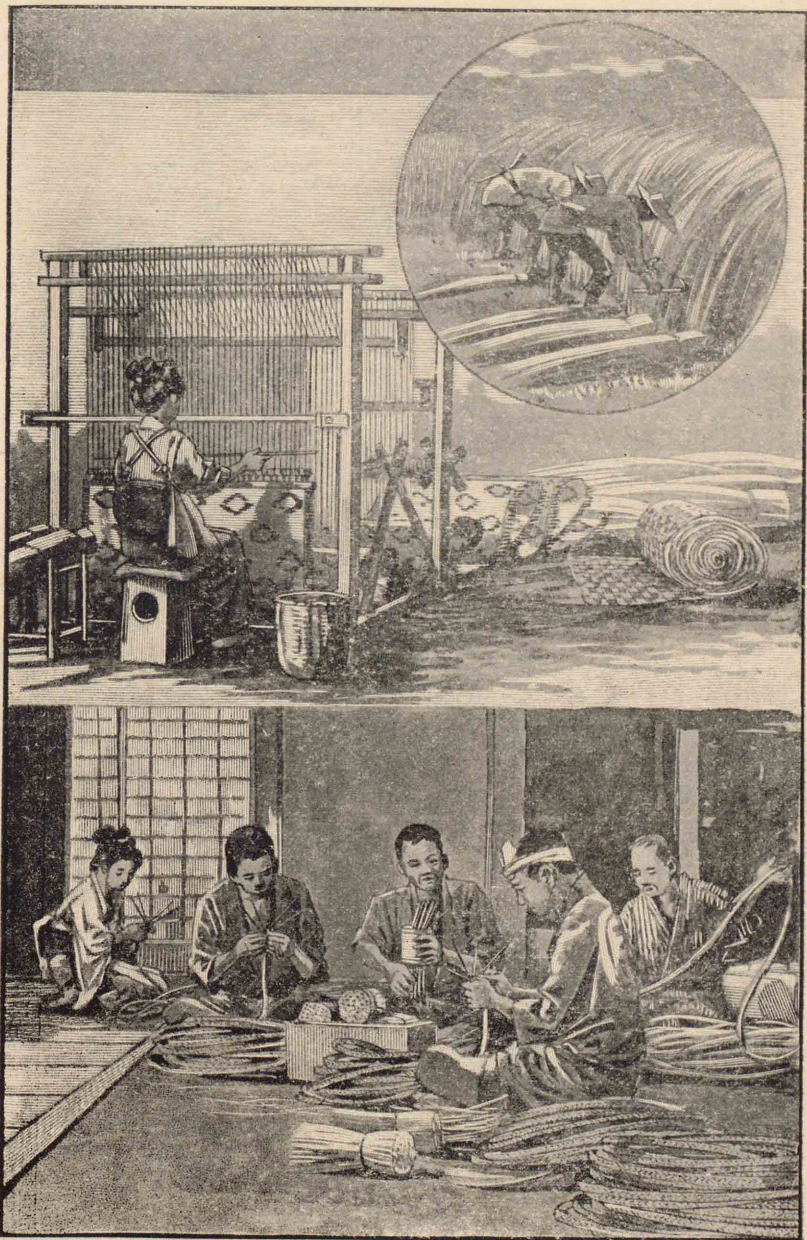
全産額 100.0

岡山縣 兵庫縣の西に於て、鳥取縣と脊中合せをなし、以て瀬戸内海に臨めり。東大（音）川（音）西大（音）川（音）高梁川（音）の下流地方は、平野開けて、米・藷・薄荷（音）の産多く、兒島半島は、東に兒島灣を抱き、西に鯛漁多き水島灣を控え、南岸に鹽田多し。

岡山市は、西大川に跨り、縣廳第十七師團司令部と、日本三公園の一なる、後樂園（音）とあり。水島灘（音）に沿へる、玉島港は、四



田鹽の岸沿海内戸瀬



製編田真稈麥・織筵蘭向出輸・れ入り苧蘭

國との間に、汽船を通ず。附近は、備後表の産多く、又岡山市と共に、綿・絲・花・筵を産し、北方の高・梁と共に、麥・稈・真・田を産す。

山陽鐵道は、神戸より岡山に來り、玉島の近傍を経て、廣島縣に入る。又岡山と、雲・齋・織の産地・津・山とを連ぬる鐵道あり。

廣島縣 岡山・山口二縣の間に位し

島根縣と、脊中合せをなし、以て瀬戸内海に臨み、島嶼多し。

福・山・尾・道市附近は、備後表の産多く、開港・絲・崎附近は、製鹽盛なり。山陽鐵道は、是れ等の市邑と、廣島とを経て、山口縣に入る。

輸出向発全産 450萬圓	300	55	50	其の他
	岡 山	廣 島	福 岡	
	69.0	12.5	10.0	

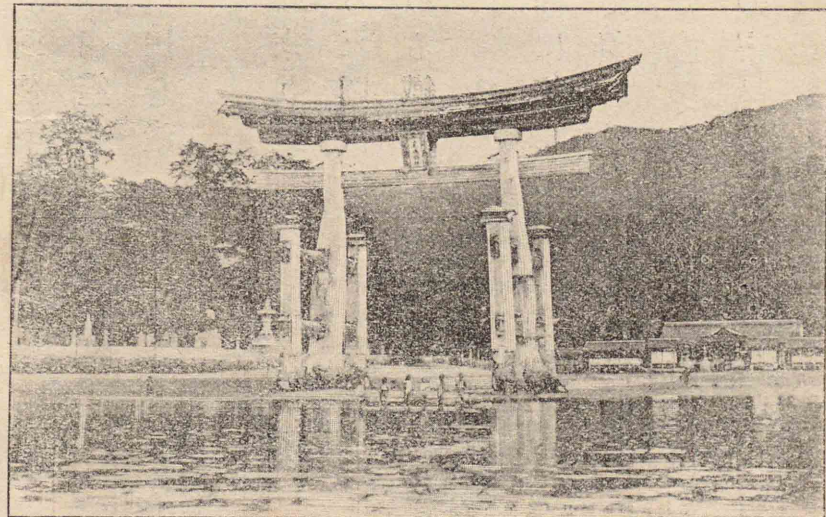
及田等産 480萬圓	160	125	30	30	其の他	の知し多きもの 産は木表以上 輸出は實陸内國 輸出五〇萬圓
麥經全 480萬圓	岡 山	香 川	愛 知	廣 島		
	34.5	26.5	7.0	6.5		

×廣島控訴院廣島
高等師範學校あり



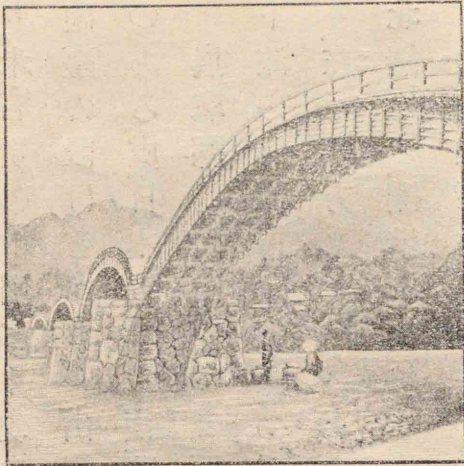
廣島市は、中
國第一の都會
にして、太田川
に跨り、牡蠣の
産多き、廣島灣
を控ゆ、鐘詰の
産多く、縣廳第

五師團司令部あり。外港宇
品は、近年、數次の外征に、我が
軍隊が、歡呼の聲に送られし
處なり。廣島灣内の嚴島に
嚴島神社あり。潮満つれば、殿
堂樓閣、水に浮べる如く、日本



嚴島神社

下關東京間は約二
百九十里



錦帯橋

三景の一と稱せらる。江田島は海軍兵學校のある處、對岸
の軍港、呉市に、第二海軍鎮守府あり。
山口縣 本州の西南端を占め、日本海、瀬戸内海に挾まる
る半島にして、魚鹽の利多く、又南部沿岸の小平野に、良質な
る、防長米の産あり。

山陽鐵道は、岩國・三田尻を經
て、下關に終る。岩國は、岩國縮
を産し、有名なる錦帯橋あり。
三田尻附近は、製鹽盛なり。下
關市は、瀬戸内海の西門なる、下
關海峽に臨み、福岡縣の門司、韓
國釜山に、連絡汽船を通じ、東京
よりの汽車行程、約一晝夜半な

り。米・石炭の取引多く、硯の名産あり。附近に、壇浦の古戰場と砲臺の設けとあり。山間の山口は、縣廳・山口高等商業學校のある處、日本海岸の萩は、夏橙の産地なり。

鳥取縣 岡山縣の反面にして、日本海に傾けり。千代川下流の鳥取市は、縣廳の所在地なり。鐵道山陰東線は、市に起り、左手の方に、大山・船上山を望みつゝ、米子に至り、夜見濱の北端なる、開港境に終る。

大山(富士)は、中國一の高山にして、船上山は、名和長年の名を、長く後世に遺す。米子は、中海に臨み、附近に、綿の産多し。白砂青松の夜見濱は、島根半島(縣下根)と、人字形をなし、中海を抱けり。

島根縣 廣島縣の反面にして、日本海に傾けり。江川は中國第一の大川にして、牛・大麻の産多き、三次(縣下島)附近の水

×後醍醐天皇が、
岐より伯耆に逃れ、
給ひし時名和長年、
給義軍を擧げて、天
皇を奉戴せし處

を集め來りて、日本海に注ぐ。其の川口の西南岸に、開港濱田あり。

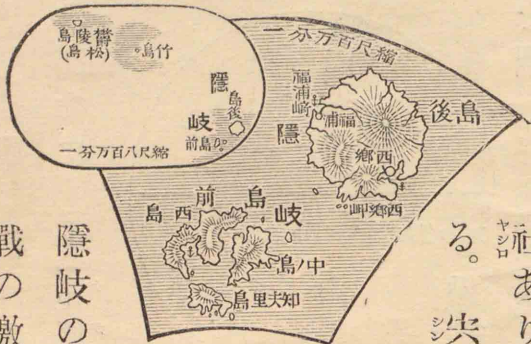
斐伊川上地方は、砂鐵の産多く、神代史に關係深し。下流地方は、綿の産多き平野にして、平野の西岸なる杵築に、出雲大

社あり。島根半島は、宍道湖と、中海との北を限る。宍道湖口の松江市は、縣廳のある處、鐵道山

陰西線、米子より來れり。遠く大山と三瓶山とを望み、景色よろし。

隱岐は、後鳥羽、後醍醐兩帝の、遷幸し給ひし處、島前、島後に分れ、鯛の産多し。島後に、西郷の良港あり。竹島は、遠く

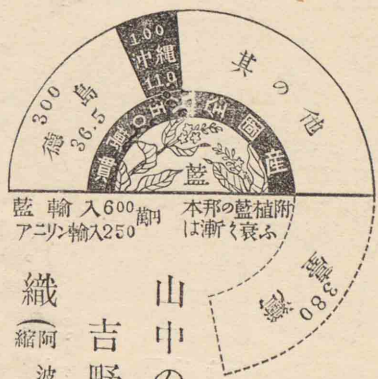
隱岐の西北海上に浮べり。其の近海は、日本海々戦の激戦地なり。



近附島竹と岐隱

祖谷山中の人民は
平家落入の子孫な
り云ふ

×齋田鹽と稱す

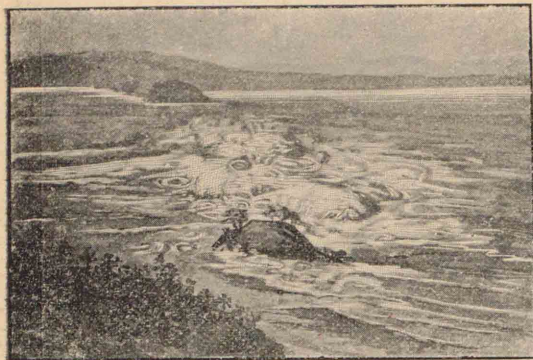


徳島縣 四國の東部を占む。西南境の劔山は、四國第一の高山にして、那賀川の源をなす。四國三郎と稱へらるゝ吉

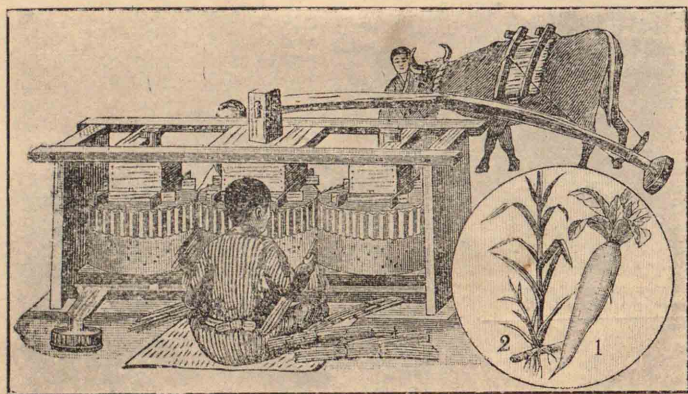
野川は、四國第一の大川にして、高知縣より來る。其の平野の脇町附近は、藍の産頗る多し。吉野川に流れ入れる、祖谷山中の谿流に、蔓橋の奇觀あり。

吉野川口に近き、徳島市は、縣廳のある處、織(阿波)の名産あり。吉野川に沿ひて、徳島鐵道を溯らしめ、大阪との間に、汽船を通ず。鳴門海峽は、潮流矢の如く、大渦の響、百雷の一時に轟くが如し。鳴門に程近き撫養附近は、製鹽盛なり。

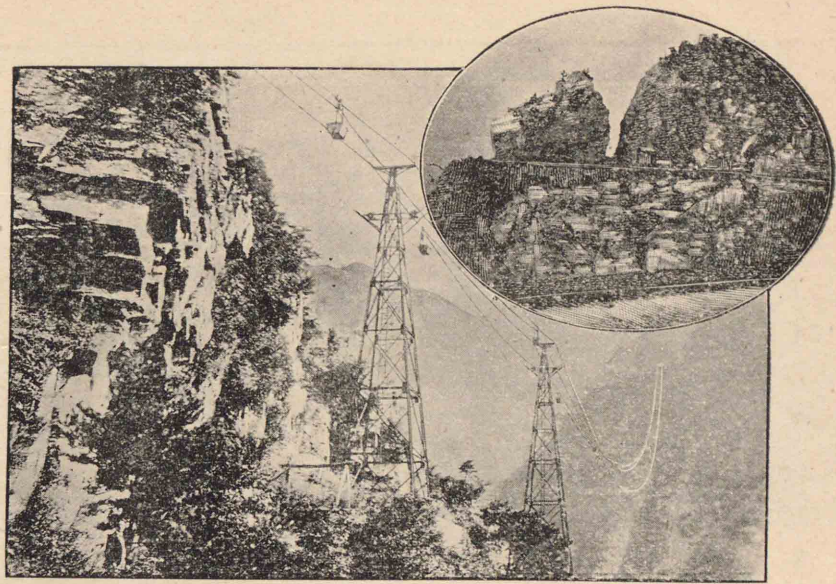
香川縣 瀬戸内海に面し、小豆島などの屬島多し。面積は、甚だ小なれども、人口稠密にして、土地開け、鹽、砂糖などの



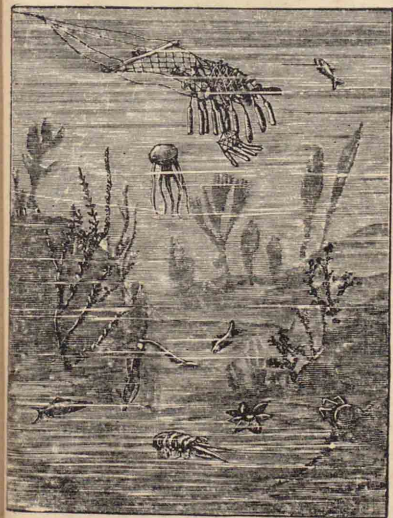
渦大と近附の峽海門鳴



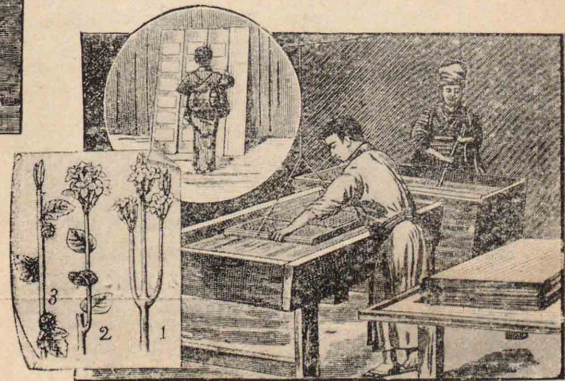
(蔗甘2料原の精製るけ於に等逸獨1)搾壓蔗甘



新居濱別子鐵道と鐵索



沖島近海紅珊瑚採收



和式紙製(1極2雁皮3箱)

産多し。

高松市は、縣廳・栗林公園のある處、内海通ひの、汽船の出入
 繁し。東に見ゆる古戰場屋島は、那須與市宗高の、弓箭の妙技
 を偲ばしむ。丸龜市・多度津は、共に西部の要津にして、善通
 寺に、第十一師團司令部あり。高松にて、讚岐鐵道に乗れば
 丸龜・多度津・善通寺を経て、琴平に達し、象頭山腹の金刀比羅
 宮に詣づべし。

愛媛縣 高知縣と、脊中合せをなし、境上に、石鎚山高く峙
 たり。西南部は、紙蠟の産多く、佐田岬、長く突出して、地藏岬
 (大分)と相對し、豊豫海峽を挟む。海峽以南は、海岸の出入多く
 そこに、宇和島港あり。

松山市は、縣廳のある處、伊豫絛を産す。伊豫鐵道により、三
 津濱道後の温泉などに至るべし。今治附近は、鹽田よく開

けたり。新居濱は、別子の銅山に、鐵道を通じ、市川のアンチ

モニ一鑛山に程近し。

高知縣

仁淀渡等の河流あれども、山地多きと、僻

遠の地なるとにより、海陸の交通、共に便ならず。縣

内、楮・三極の植付多くして、和紙(主に土佐)の産、全國第一な

り。

西南沖島の近海は、紅珊瑚を産し、土佐灣は、室

戸足摺二岬に抱かれ、鯨・鯨の漁獲多く、土佐節の

名、世に高し。浦戸灣内の高知市に、縣廳あり。

和紙生産額 1,500萬圓	270 高知 17.5	150 大分 8.5	110 熊本 7.5	500 福岡 7.0	75 徳島 5.0	其他
輸出(和紙)	500					

第六章 九州地方

肥後日向大隅薩摩壹岐對馬琉球

大分縣

肥前の東部

佐賀縣

肥前の東北部

長崎縣

肥前の西南

縣八

福岡縣

肥前の西北部

宮崎縣

日向

鹿兒島縣

薩摩

沖繩縣

琉球

位置

北は日本海、東は瀬戸内海と太平洋とに臨み、西は

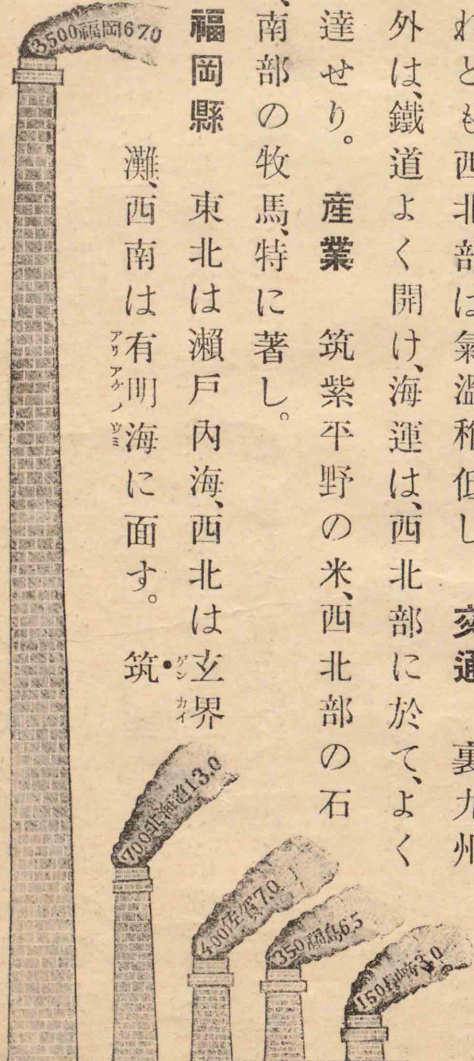
九州北部九州
九州南部九州
九州西部九州
九州東部九州

全國の石炭産額は
五〇〇萬圓に達し
て、地方の石炭産
額は、その半に達
し、單位の産額を
なり

東支那海に面す。本州・四國の西南なる九州島と、附近の島嶼
とより成れり。地勢 大部山地なれども、筑紫二郎と稱へ
らるゝ、筑後川の川筋には、筑紫平野開けたり。海岸 太平
洋面は、出入少なく、文化後れて、裏九州の稱あれども、西北面
は、特に、港灣・半島、さては島嶼多し。氣候 一般に、高温多雨
なれども、西北部は、氣温稍低し。交通 裏九州
の外は、鐵道よく開け、海運は、西北部に於て、よく
發達せり。産業 筑紫平野の米、西北部の石
炭、南部の牧馬、特に著し。

福岡縣

東北は瀬戸内海、西北は玄界
灘、西南は有明海に面す。筑



石炭の分布

×玉づさのしもの
關路の行衛こそ心
つけくしの初めなり
(古歌)

後川は九州第一の大川にして、大分縣より來り、佐賀縣との境を限りて、有明海に注ぐ。其の筑紫平野の米は、遠賀川上流(筑田)及び三池の石炭と共に、産額頗る多し。心つくしの入口なる、本邦第四の開港門司市は、下關に連絡汽船を通じ、内外航路に當りて、石炭の輸出多く、市況日に盛なり。

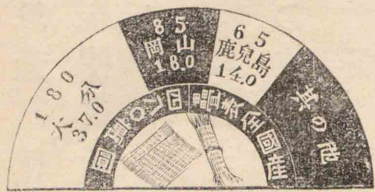
九州鐵道の幹線は、門司に起り、小倉・福岡を過ぎて、佐賀縣を掠め、再び本縣に來りて、久留米を過ぎ、熊本縣に入る。中途に於て、大分縣及び遠賀川上流地方等に、支線を分てり。

小倉市は、第十二師團司令部のある處、大分縣に赴く鐵道此處に分る。開港若松は、南對岸に、八幡製鐵所を控えて、鐵塊の輸入多く、又遠賀川上流の炭田地方に、鐵道を通じて、石炭の輸出多し。福岡市は、縣廳醫科大學のある處、博多・福岡

*郊外にあり京都
帝國大學の分科な
り

×九州地方を治め
併せて外寇に當る
△菅原道真を祀る

×疊表は備後表と
七島表の二に分る
前者は蘭草細くし
て普通の座敷に敷
かれ後者は蘭草太
くして體裁あしき
も堅牢なり



の二部より成れり。博多は、開港にして、博多織を産す。其の東南の太宰府は、太宰府のありし處、太宰府神社あり。久留米市は、第十八師團司令部のある處、筑後川の中流に沿ひ、久留米緋の産多し。開港三池は、石炭綿絲の産多く、大牟田港を控えて、之を輸出す。

大分縣 森林多き山地を負ひて、瀬戸内海に面す。東北部の國東半島は、七島表の産多く、形坊主頭に似て、喉元に、別府

灣あり。灣岸の大分は、縣廳のある處、別府は、鶴見由布の二火山を仰ぎ、温泉湧けり。小倉に起る鐵道は、中津を過ぎて、宇佐附近に終る。宇佐の八幡宮は、和氣清磨が、神勅を承りし處なり。山國川口の中津より、川を溯れば、耶馬溪あり。溪流、珠玉を飛ばし、奇岩、天空を衝きて

風景、謂はん方なし。

佐賀縣 東南部は、筑紫平野の一部にして、牡蠣の産多き有明海に面す。西北の東松浦半島は、唐津灣と伊萬里灣とを分ち、名古屋の故地(豊臣秀吉が朝鮮征伐の本營を置きし處)を存す。開港唐津は、其の東南地方の、唐津炭を輸出し、伊萬里は、今尙ほ、有田燒の積出港たる傾きあり。

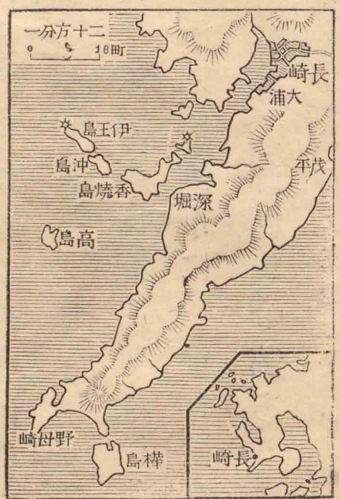
九鐵長崎線は、鳥栖にて、幹線に分れ、縣廳の所在地佐賀を經、製陶業盛なる、有田を過ぎて、長崎縣に入る。中途にて、唐津・伊萬里二線を分てり。

長崎縣 海岸の出入及び屬島多きこと、類稀なり。鐵道長崎線は、支線を、第三海軍鎮守府の所在地なる、軍港佐世保市に通じ、本線は、大村灣岸を走りて、長崎に終る。

長崎市は、彼杵半島の東南岸に立ち、内外の航路に當り、水

尋深く、碇泊に便なり。古き開港なれども、今や其の貿易額、門司の半に居るのみ。縣廳長崎高等商業學校と、東洋第一の三菱造船所とあり。龍甲細工を産し、沖合に、高島の炭坑を控ゆ。

島原半島は、中央に温泉岳



長崎附近

峙ち、東岸の島原に、温泉湧き、南岸に、開港口津あり。五島は五島鰯を産し、平戸島と共に、鯨の漁獲多し。平戸島の東北なる鷹島は、十萬の元兵が、海底の藻屑となりし處なり。壹岐と對馬とは、日本海の西門に横はり、韓國に渡る飛石の如し。兩島の挾める、對馬海峽の東方は、日本海々戰の序幕を開きし處、沖島(福下)の近海は、常陸丸が、千秋の恨を遺し、

處なり。對馬は、鯛の産多く、其の竹敷は、海軍の要港にして
嚴原に、警備隊あり。

熊本縣 宮崎縣と、脊中合せをなし、東北、阿蘇火山の地方
は、牧馬盛なり。阿蘇山に發する、白川の下流地方は、肥後平野
にして、肥後米・麥・粟の産多し。宇土半島は、有明
海と、八代海とを限り、開港三角を西端に控ゆ。天
草諸島は、半島の西南にあり。其の外海は、萬里泊舟
てふ天草灘なり。

熊本市は、白川に沿ひ、縣廳第五高等學校、熊本
高等工業學校あり。熊本城は、市に程近き、田原阪
と共に、西南の役を偲ばしめ、今は、第六師團司令部あり。

福岡縣より來る九州鐵道は、熊本を過ぎて、三角に支線を分ち、幹線は八
代を経て、人吉に終り、日ならずして、鹿兒島鐵道に接續せんとす。



△雲耶山耶吳耶越
水大縣青一
萬里舟天草灘
烟見蓬窓日漸沒
大白當船波似月
(稻山陽)

五家莊は、平家の落人が、世を忍びし處にして、今尙ほ、人情
風俗など、別天地をなす。日本三急流の一なる球磨川は、此
の地方に發し、人吉を過ぎ、八代に至りて、八代海に入れり。

宮崎縣 西北境の祖母山九州第一高山、西境の市房山、西南境の
霧島火山などの山々、三方をふさぎて、山林多きも、陸路不便
なり。且つ、日向灘には、細島・油津の外、海運開けざるが故に、皇
基創業の地なる本縣は、今や全く、僻遠の地となりて、人口少
なく、裏九州の大部を占む。

大淀川口に近き宮崎は、縣廳のある處、川を溯れば、都城あり。
延岡は、五箇瀬川口に位し、日平の銅坑に、程近し。

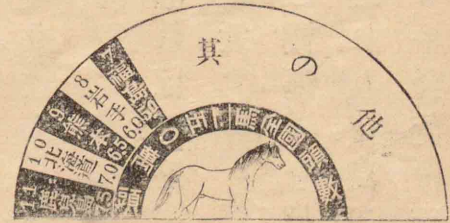
鹿兒島縣 薩摩大隅の二大半島、鹿兒島灣と、櫻島とを挾
み、薩南諸島は、點々西南に互りて、琉球諸島に連れり。櫻島は
開聞岳と共に、火山なり。川内川などあれども、平野開けず。

金全國産 350萬圓	130 鹿兒島 33.0	50 秋田 14.5	40 新潟 11.5	17 岩手 50	17 兵庫 50	其の他	多し 鹿兒島 薩摩の産額は
---------------	--------------------	------------------	------------------	----------------	----------------	-----	---------------------

甘藷全國産 8,000萬貫	15,000 鹿兒島 18.0	1,100 沖繩 13.5	600 長崎 7.5	其の他
------------------	-----------------------	---------------------	------------------	-----



されど、山野等の金産額は、府縣中の第一に居り、又馬・甘藷・砂糖・薩摩節の産多し。鹿兒島市は、薩摩燒・薩摩絣を産し、縣廳第七高等學校造士館あり。西郷隆盛が、最後を遂げし城山を負ひ、櫻島を前に控ゆ。神戸に、汽船の便を有し、又鹿兒島鐵道こゝに起り、葉煙草の産地。國分を經、北境附近に終れり、錫の産地谷山は市の南方にあり。薩南諸島は、甘藷の産多く、中に種子島・屋久島・大島・喜界島などあり。大島は、大島紬・黑砂糖を産し、喜界島は、僧俊寛が、配流されし處なりとかや。沖繩縣 薩南諸島と相連り、臺灣に渡る飛石の如し。



高温多雨にして、霜雪を知らず。暴風、屢襲ひ來るが故に、石垣を高くし、家を低くす。蘇鐵・芭蕉・甘蔗・甘藷などの熱帶性植物よく生育す。内地との交通漸く開け、教育日に進めども、今尙ほ、風俗・言語など、内地と異なるもの多し。最大島沖繩に、那覇區あり。芭蕉布・琉球紬・琉球塗・泡盛を産し、舊王都・首里區に程近し。先島諸島に、宮古・石垣・西表などの島々あり。遠く、沖繩島の西南にありて、臺灣と共に、其の時刻、内地に比して、一時間遅し。

第七章 臺灣

位置 帝國第四の大島にして、國の西南端にあり。西は、臺灣海峽によりて清國に、南は、バシ海峽によりて、フィリピン群島(アメリカ合衆國領)に對す。地勢 外形、木葉又は甘藷の如く、或は大魚に似たり。大山脈、東部に偏して、南北に走り、高山・峻嶽多し。

二十一 臺北基隆宜蘭深坑桃園新竹苗栗臺中彰化南投斗六嘉義臺南嘉義水港臺南善化臺南麻豆臺南麻豆臺南麻豆臺南麻豆

△支那人は玉山西
洋人はモリソン山
と曰ふ
×支那人は雪山と
稱す

下園は香川縣
の産額一〇
〇萬貫を單位
とす

中にも、新高山は富士山を凌ぐこと二千尺、まことに帝國一の高山にして、シルビア山も亦富士山と其の高さを争ふ。山脈の西側は、臺灣平野開けて、農産多し。海岸 出入少なく殊に東岸には、數千尺に達する斷崖あり。屬島は澎湖島の外著しきものなし。氣候 高温多雨にして、暴風雨屢襲ひ來り、北部は寒暑の差多し。交通 鐵道は漸次延長し、汽船は本島諸港間を始め、内地、本島間、本島南清間を連絡して、交通意外に發達し、又陸に橋、海岸に竹



筏ありて、交通に便ず。産物 平野の米は、一年に二回、收穫

落花生鳳梨甘蔗生
育し榕樹檳榔樹茂
れり

×熟蕃は支那人の
教化を受け概ね農
業に従事せり

すべく、北部は茶、南部は砂糖を産し、山地の樟樹は、以て樟腦を製すべく、各地の林投樹は、硫球産と共に、夏帽子の原料たるべく、其の他、山地の檜、西南岸の鹽、北部の金、石炭など、何れか帝國の富源ならざる。

歴史 本島は、古來、我が國と、關係深かりしが、日清戰役の結果、終に、我が領地となり、今や、臺灣總督府の下に、二十廳を置きて、之を治む。住民 歴史の關係上、支那人の子孫、最も多く、其の數三百萬に達す。蕃人は、其の數、僅に十餘萬にして、生蕃と熟蕃との二あり。其の生蕃は、山地に住し、時に兇暴の行動あれども、今や歸順するもの、相踵ぐに至り、最早、恐るゝに足らず。唯、内地人の移住、僅に六萬にして、農商工の實利、舊支那人の手にあるを如何せん。

處誌 東北岸の基隆は、内地より、本島に入るの門にして

臺北の舊城壁は今や破壊せられたる稱あり
城内外の

通基基隆打狗間を臺灣鐵道と稱す彰化の西北に開港塗葛窟あり

×牡丹社は明治七年の軍の討伐せし部落なり

△松島艦の沈没せし處市街を馬公城といふ

附近に金石炭の産地あり。臺北は、本島第一の繁華地にして、臺灣總督府第一混成旅團司令部あり。城外の大稻埕は、製茶盛なり。淡水河口の開港淡水は、茶樟腦の輸出多し。

基隆に起る臺灣鐵道は、臺北に來りて、淡水に支線を分ち、本線は、苗栗臺中彰化嘉義臺南を経て打狗に終り、更に、鳳山に赴く鐵道に連絡す。

苗栗は樟腦、臺中彰化は米の取引多し。臺南は、本島の首都たりし地にして、第二混成旅團司令部あり。嘉義鳳山と共に、製糖業榮え、安平打狗の二開港は、之が輸出多し。恒春は、帝國最南の都邑にして、帝國極南の南岬に程近く、北東に牡丹社あり。

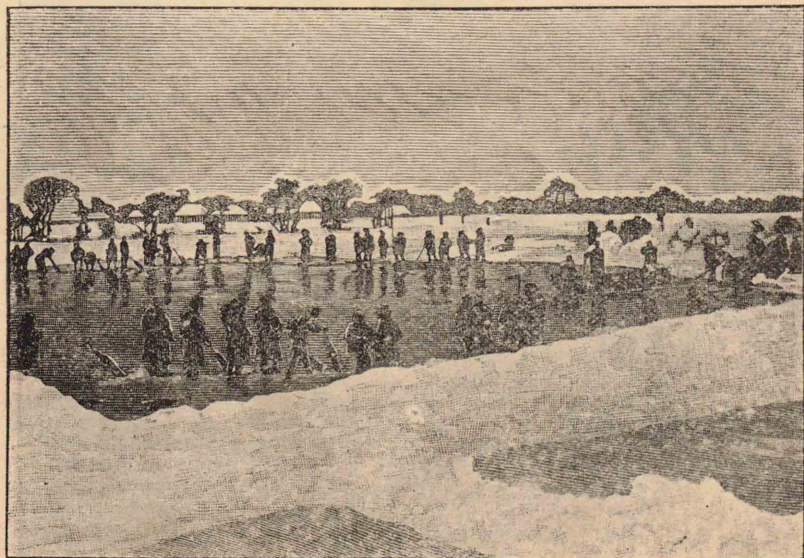
臺灣海峽中の澎湖諸島は、南清に渡る要地なり。其の媽宮は、海軍の要港にして、帝國南門の鎖となすべし。花嶼は、帝國の極西端なり。



上方は琉球の景面前に阿旦の葉原料林投樹あり
下方は臺灣の樹林投樹即ち臺海マナパの原料あり



業執の妻夫ヌイア



り切氷の廓稜五

第八章 北海道

渡島後志石狩大鹽北見膽振
日勝十勝釧路根室千島

位置 千島諸島は、露領カムチャツカ(カムチャツカ)半島に向ひて、飛石の如く連なり、太平洋とオホーツク海とを分てり。赤鱈に似たる北州は、帝國第二の大島にして、津輕海峽を隔て、本州に、宗谷海峽を隔て、樺太に對す。地勢 北州の中央は南北に連なる山地と、東西に亘れる山地と、相交りて、ヌタクカムウシユベ、石狩などの高山多く、石狩、天鹽、十勝、釧路の四大川、此の附近に發して、平野を開き、以て内地よりの移民を待てり。又西南部の内浦灣附近には、樽前岳、有珠岳、マツカリ岳、駒岳など峙てり。海岸 宗谷、襟裳、二岬は、赤鱈の兩鰭をなし、頭部は、根室、納紗、布二岬、根室海峽を抱き、尾部は、半島をなし、内浦灣と函館灣とを入る。氣候 寒氣強く、雨雪少なし。中部は、寒暑の差著しく、西北岸は、東南岸よりも、溫和なり。

×天鹽山脈日高山脈
△千島火山脈

マツカリ岳は、長夷富、又は後方羊蹄山とも云ふ

交通 海運發達し、鐵道は、北州の西半に於て、特に延長せり。

產物 米(全島民に對) 麥・豆・馬鈴薯・菜種は、產

額、漸く増加し、日高・石狩の原野には、牧畜盛なり。又山地の蝦夷松・樅松・石炭は、鮭・鮭昆布等の海產

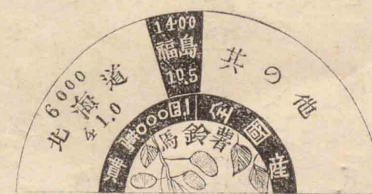
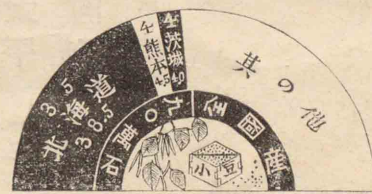
乾乾料	34000萬圓
水産製造	高
水産製造	34000萬圓
水産製造	高
水産製造	34000萬圓

水産製造	輸出	二一〇〇萬圓
魚油	200	
鱈	250	
昆布	150	
貝柱	80	
乾鮭	55	
海參	55	
乾鮑	45	
鱈鱈	20	
其他		

300北道	28.5
190東京	5.5
180千葉	5.0
150静岡	4.5
140鹿兒島	4.0
120高知	3.5
100岩手	3.0
100三重	3.0
400	

其他

物と共に、其の産額多し。歴史 明治の初めより開拓に力め、殊に内地よりの移民を奨励せしが故に、今や人口百二十萬に達せり。而して舊土人アイヌは、其の數僅に二萬に満たず。



大豆全國産	主産地	産額	百分比
350萬石	北海道	207288	11.0
	北茨城	2211	7.5
	新岩	2211	6.0
	玉湯手	2211	5.0
		2211	5.0

輸出 20万石 輸入 1000

△松前藩の舊城地

×東北帝國大學の分科
*北海道炭礦汽船會社と英國のアムストロング會社等との合同事業

アイヌは、古の蝦夷の子孫にして、日高國沙流川の畔に、其の部落多し。臺灣の蕃人に比すれば遙に骨格逞しく、威風あれども、其の性質極めて溫和にして、寧ろ管鈍と謂つべく、兇暴の行爲あることなし。男子は、多くの頭髮を鬚髯を蓄へ、女子一たび嫁げば、必ず口邊に黥す。衣服は、楡の皮を以て織りなせるアツシにて作られ、筒袖にして裾短く、脚絆を穿つを常とす。熊を射、鮭鱒等の魚類を捕へ、粟種などを作りて、わびしき小屋に憐むべき月日を送れり。されば近時、内地人の同情をよすもの漸く増加し、殊に政府は、貧民を救助し、農耕を勧め、小學教育を施すなど、仁政及ばざるなし。

處誌 函館灣内の開港 函館區は、青森に連絡汽船を通ず。

要塞の設ありて、大湊(青森縣下)と共に、津輕海峽の鎮となすべし。北郊の五稜廓は、明治の初年、榎本武揚が、官軍に抗せし處計らざりき、其の外濠が、今や函館氷の本場とならんとは。福山・江差等の海岸は、鮭の漁獲多し。開港小樽區は、石狩平野に入るの門なり。札幌區は、石狩川の支流に沿ひ、北海道廳農科大學のある處。麥・酒麻布等の産多し。石狩國には、夕張幌内・幾春別・歌志内などの炭坑多く、開港室蘭には、日本製鋼

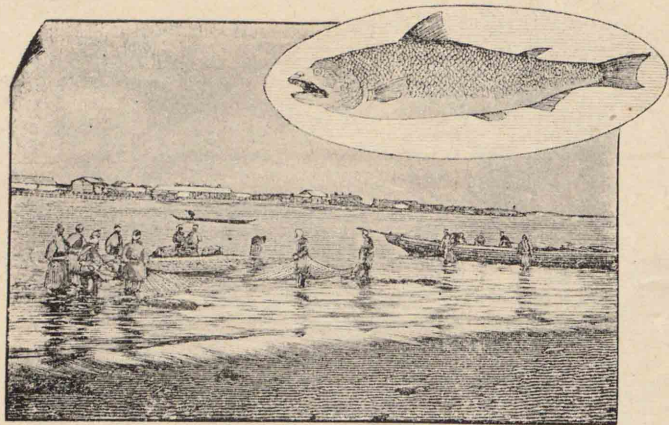
會社あり。

石狩川は、長さ九十餘里、帝國第二の大川にして、附近の石狩平野は、農産多く、鐵道よく開けたり。川口の石狩は、鮭漁盛なり。鐵道北海道線は、函館小樽を運ぬ。北海道炭鐵線は、室蘭に起り、苫小牧岩見澤札幌を經、小樽にて北海道線に接續し、其の附近に終れり。尙ほ其の支線は、岩見澤より砂川に赴くものも、石狩の炭坑に通ずる數線あり。旭川線は、砂川に於て之に接續し、旭川に至りて二分す。其の北するものは、天鹽川の中流に及び、南するものは、十勝平野に出で、遂に釧路港に達せり。

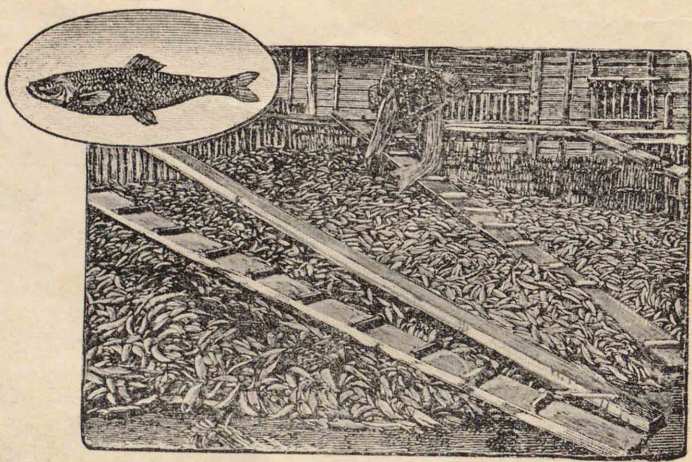
旭川は、第七師團司令部のある處、此の附近は、寒氣強し。

北見の稚内は、宗谷海峽に臨み、西方海上の禮文利尻二島と共に、鮭漁多く、枝幸は、砂金を産す。釧路川口の開港釧路は、鐵道枕木、昆布を輸出し、根室港は、千島に渡る要地なり。

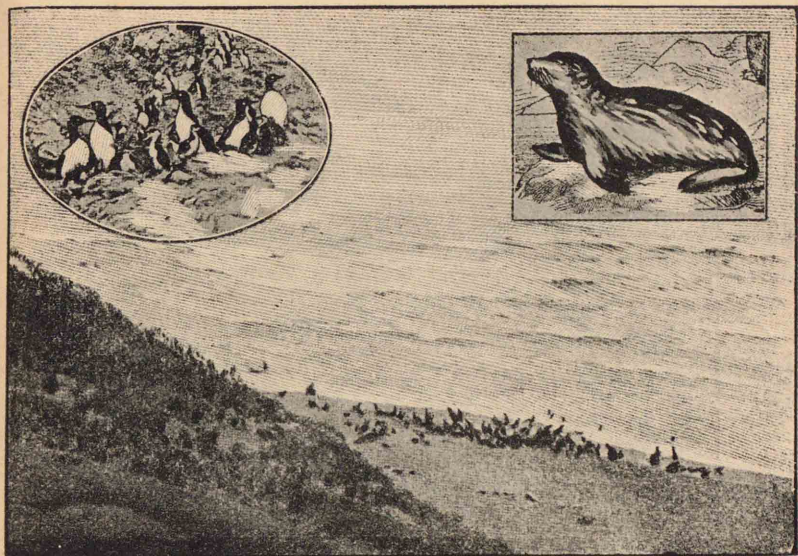
千島諸島は、火山に富み、硫黃の産多く、又海上に臘肭獸臘虎など多し。國後、色丹、擇捉、得撫、幌筵の五島、其の名顯はれ、占守島は、郡司大尉の率ゆる、報効義會の根據地にして、帝國の極東端なり。阿頼度島は、帝國の最北部なり。



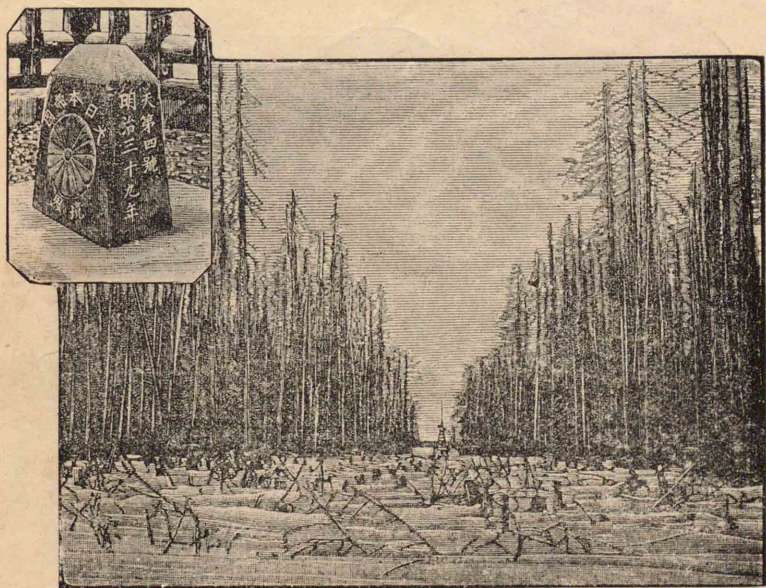
石狩川の口に於ける鮭漁



鮭納屋



(左)鴨ンペッコと(右)獸胎膾るけに於に島豹海



標界境と業作空林の界境露日るけに太樺

第九章 南樺太

位置 東はオホーツク海に臨み、西は間宮海峽を隔て、露西亞領沿海州に對す。**地勢** 低き二條の山脈南北に走り、其の間なる幌内川は、本區一の大川にして、露領より來り本區一の大平野を開けり。**海岸** 中知床・西能登呂二岬は亞庭(見)灣を抱き、多來加灣は、北知床岬に限らる。**氣候** 冬季は、長くして寒氣強く、港灣概ね氷結して、船舶の往來絶え、海底電信によりて、漸く内地と音信す。

産物 夏期は、溫度急増するが故に、裸麥・馬鈴薯・甘藍を栽培すべく、蝦夷松・榎松・落葉松の密林あり。鱒・鮭・鱒・昆布・海獸(膾)等(歌)の水産は、無盡藏と稱へつべく、石炭の産、亦有望なり。**歴史** 元、日露兩國が、開拓せしものなれども、明治八年、干島全部を、我が領有となし、本島全部を露西亞に譲りたり。然

×重藏岬又はシ
トコ岬△近藤岬又
はノト岬△七郎岬又
海又はテル岬△ニ
ア灣*片岡岬又は
テルペーニア岬

多來加灣内の海豹
島は膾胎獸の海豹
群棲せり

×夏季は七萬人冬期は三萬人

るに明治三十七八年の戦役以來、南部(北部稱)、我れに屬するこ
ととなり、今や樺太廳之を治む。住民 今や露西亞人は退
去し、アイヌなどの少數の土人あり。内地人の移住、漸く増加
し、殊に夏期は、出漁人相踵ぐ。

都邑 亞庭灣頭の大泊(九春古丹又は)は、本島に入るの要地な
り。豊原は、樺太廳守備隊司令部のある處、鈴谷川の上流に沿
へり。輕便鐵道、大泊より來り、日ならずして、西の方、眞岡に延
びんとす。眞岡は、不凍港にして、鮮漁盛なり。

結論 地文上よ世界之日本

第一節 土地

地球の表面は、九百萬方里に近き陸と、之に約三倍する水
とより成り、水陸交叉して、大は大陸、大洋となり、小は、半島、岬
崎、海灣、島嶼となる。大陸に、亞細亞、亞弗利加、歐羅巴、北亞米

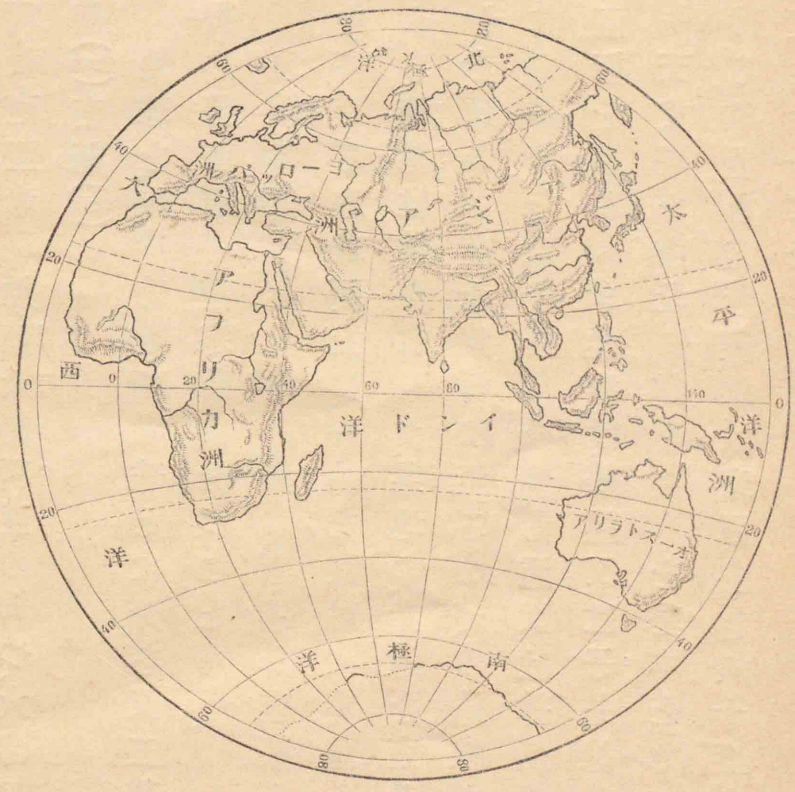
利加南亞米利加、濠太刺利亞の六つ、大洋に、太平、大西、印度、北
極(北水)、南極(南水)の五つあり。

地球を、東半球と西半球とに分ち、又五帶即ち、北寒帶、北溫
帶、熱帶、南溫帶、南寒帶に分つことあり。

地軸の北端を北極と稱し、南端を南極と呼ぶ。南北兩極の
中間なる地球面上に、一線を設けて赤道と云ふ。赤道に並行
する横線は、緯線にして、某地の赤道を南北に距る位置を定
む。赤道より、南北兩極に至るまでの緯線を、各九十度に分ち
其の一度を、六十分に分つ。赤道又は緯線と直角に交り、南北
兩極を結ぶべき縦線は、經線又は子午線と稱し、英國グリニ
チ天文臺を、南北に貫くものを基本として、某地の東西に於
ける位置を定む。經線は、東西、各百八十度ありて、其の一度は
又六十分に分たる。

日伊西英和佛獨
太班吉蘭
本利牙利蘭西逸

單位方里
二二二三三三三
九〇三〇二二五五



球 半 東

さて、我が國の面積は、地球全陸土の約三百分一に足らざれども、世界の強國中には我が國よりも尙ほ狭きものあり。但し彼れ等は、概ね廣き屬地を有せり。我が國は、東半球なる、亞細

△*×
澎湖南
島北南
東度北南
占守島東端
三十五度三十九分
東經百三十九度四十分



球 半 西

亞洲の東部、太平洋の西北部に横たはれる島國にして、尙ほオホーツク海、日本海、東支那海にも沿へり。大部北温帶に位し、南は北緯二十一度四十八分に起り、北は北緯五十六分に

至り、西は、東經百十九度二十分に起り、東は、東經百五十六度三十二分に至る。

第二節 地勢 附 火山地震

地球は、元、熾熱の瓦斯團なりしが、冷却して、表面に地殻を生じ、其の地殻は、更に地球冷縮の結果、皺を作れり。山は、其の高き所にして、通常、山脈をなせり。山系とは、並び走れる、數多の山脈の總稱なり。火山は、地熱作用により、地殻の裂目より、噴出したる、熔岩・火山灰などにて、成りしものなれば、通常圓錐形を呈して、長く裾野を引き、頂上に、噴火口を有す。其の列をなすを、火山脈と稱す。世界の山脈は、多く、大陸の沿岸を走り、火山脈は、太平洋を略、一週するものと、大西洋を、南北に縦走するものなど著し。

我が國は、地形、細長き上に、數多の山脈・火山脈、相亘れるが

山の成るは單に地球冷縮の結果のみならず

樺太及び臺灣には共に南北に縦走せる山脈あり
×天鹽山脈日高山脈に分る

故に、平野稀にして山地多し。富士火山脈、本州の中部を、南北に貫き、土地を、北・日本と、南・日本とに分てり。妙高山・八岳・富士山・箱根山・天城山・伊豆七島など、此の脈中に存す。北日本の山脈は、樺太山系と總稱し、北州には、縦走せる蝦夷山脈、露領カムチャツカ半島より來れる、千島火山脈と相交り、奥羽には、奥羽分水嶺と那須火山脈との二者中央山地を形成し、其の東西兩側に、之と並行する山脈あり。南日本の山脈は、日本崑崙山系と總稱し、赤石・紀伊・四



間歇溫泉

國・九州南部等の諸山脈、中國・九州北部等の諸山脈と、南北相對して走れり。

地熱により、暖められたる熱水の、地面に湧き出づるは、溫泉にして、攝養に適するもの多し。我が國は、世界有数の溫泉國にして、中には、熱海の如き間歇溫泉あり。諸子試みに、二三の溫泉地を指示せよ。地震は、地亡又は噴火などによりて起り、我が國の如き、火山多き地に多し。

第三節 河川

大陸の河流中には、長さ千五百里を超ゆるものあれども我が國は、地形、細長き上に、山脈、中央に連るが故に、信濃、石狩二川の如きも、長さ百里に近きのみ。但し急流多きが故に、水力を利用して、器械を運轉するに適す。

河川は、土砂を運びて、肥沃の平野を作り、又交通灌漑の利

間歇溫泉は時を定めて水蒸氣熱湯を噴騰す

本邦の大河長川と思はるもの十個を擧げよ

關東濃尾大阪などの平野は河水の澱

らし、土砂の堆積と土地の緩慢なる隆起とによりて成る

あるが故に、附近に、都會の起るを常とす。其の船舶の出入多き都會を、特に河港と稱す。試みに、河川に沿へる、我が都會を擧げよ。

湖沼 には、鹹湖と淡水湖とあり。鹹湖は、出口なくして、鹽分を合めるものなり。我が國には、之を缺けり。大陸の湖沼中には、我が國の全面積より、大なるものあれども、我が國の湖沼は、琵琶湖の如きも、面積、四十餘方里あるのみ。但し其の數多くして、中には、舊噴火口に、水を湛へしものあり。

湖沼は、風景を添へ、又河流の如く、交通灌漑の利あるが故に、附近に、都會の起ることあり。其の船舶の出入多き都會を特に湖港と稱す。試みに、湖沼に沿へる、我が都會を考へよ。

第四節 海岸

陸と水との境界を連ねたるもの、之を海岸線と云ふ。海

臺灣は東岸に斷崖絶壁多く西岸に砂濱多し

岸には砂濱あり、斷崖絶壁あり。砂濱は土地の緩慢隆起地に斷崖絶壁は、緩慢沈降地に多し。我が太平洋岸には砂濱多く日本海岸には斷崖絶壁多し。

半島岬崎出で、海灣灣入せんか、従つて海岸線延長す。海岸線の延長する所は、概ね交通貿易の便多く、文化進み、都市の起るを常とす。

歐羅巴、北亞米利加二洲が、文明日に進み、アフリカ洲の開化が、遅々たる主原因は、海岸線の割合に、長きと短きとに因る。我が海岸線は、太平洋岸に長くして、日本海岸に短く、之を一局部より見れば、九州の西北岸と、瀬戸内海岸とに發達せり。全延長無慮八千里に近く、陸地の面積に比し、割合に長きこと、世界稀なり。即ち我が國は、文明に赴くべき、一大原因を有するなり。

第五節 海流 潮汐

海流は、主に、風の連吹に因りて起る。寒暖二種ありて、共に氣温雨量水産航海等に、大關係あり。太平、大西、印度三洋には赤道附近に、暖流ありて、概ね東より西に進む。其の大陸に近づくや、方向を變じ、大西洋に於けるメキシコ灣流、太平洋に於ける日本海流などなる。

日本海流は、フリッセン群島の近海より、臺灣の近海に來り東北行して、我が太平洋岸を過ぎ、遂に、北亞米利加洲の西岸を衝く。我が太平洋岸に雨量を増し、又鱈、鯉などを多く伴ふ。其の支派なる對馬海流は、九州の西岸より、日本海に入り、北海道の西岸を衝く。我が日本海面が、割合に寒からずして、冬季に雨雪多きは、主に、對馬海流の影響なり。我が近海の寒流に、千島樺太ライマン(ハコ)の三つあり。千

日本海流を黒潮と稱するは我が近海に於て深藍色なればなり其の深藍色は蒸發多くして鹽分に富めばなり

× 風胸獸腺虎等

島海流は、一に親潮と稱し、カムチャツカ半島の近海より、西南に向ひて、千島北州キシキウさては奥羽の太平洋岸を洗ひ、金華山附近に來る。沿岸の氣温を低下し、昆布・鱈・海獸ウニ之に生育す。樺太・ライマンの二海流は、オホーツク海オホーツクに起り、一は樺太島の東岸を、一は樺太島の西岸を流る。

抑も月に對する地球面は、強く月に引かれ、其の反對面は月に遠ざからんとす。而して海水は、固體ならざるが故に、其の現象、著しくして、右兩地は、満潮となり、之と直角をなす地は、干潮ウシツとなる。満潮・干潮は、約一日に、二回づゝありて、其の干満の差は、新月・満月の頃に最も多し。我が海岸中、干満の差の多きは、九州の有明海にして、日本海岸は、概ね少なし。

海峽にては、潮汐干満の際、二個の海面に、高低を生じて、潮流を起す所あり。舟行危き、鳴門・下關兩海峽は、之が適例なり。

第六節 氣候

空氣の溫度・風向・晴雨等を總稱して、氣象と云ふ。氣象は、時により、處によりて、相異なるなり。我が國は、全國を十氣象區に分ち、東京に中央氣象臺を置き、各地に測候處を設け、天氣を豫報し、時に、暴風雨襲來の虞ある時は、警報を發す。

空氣の溫度 緯度の高低赤道を距る距離、土地の高低、水陸の配置、海流の寒暖、風の方向、山脈の位置等によりて、各地相同じからず。

風 低溫地の空氣は、高溫地に向ひて流動す。是れ即ち風なり。されば風は、常に高緯度の地より、低緯度の地に向ひて吹き行くが如きも、種々の原因、他にあるが故に、必ずしも然らず。

貿易風 赤道の南北、約三十度以内の海洋上に於ては、北

半球に東北貿易風、南半球に東南貿易風あり。一は北風、一は南風なるべきも、地球自轉の結果、方向を變じて、右の二風となるなり。

季候風

陸は、海よりも早く温まり、早く冷ゆるものなり。

即ち海洋は、陸地に比し、夏は冷かにして、冬は暖し。斯かる氣候を、海洋的氣候(海洋性氣候)と云ひ、然らざるものを、大陸的氣候(大陸性氣候)といふ。既に、海陸の受温に、遅速あるが故に、夏期は、大陸に向ひて、海洋より風吹き、冬は之に反す。之を季候風と曰ふ。季候風の交代期即ち春と秋とは、暴風吹き荒むを常とす。

海風陸風

海岸又は島嶼にては、晝間は、海風、陸に向ひ、夜間は、陸風、海に向ふ。さなきだに、海岸又は島嶼は、海洋の影響大にして、避暑避寒に適するに、此の海風陸風あるが故に、避暑の客は、特に之を喜ぶ。

海風陸風 海岸又は島嶼にては、晝間は、海風、陸に向ひ、夜間は、陸風、海に向ふ。さなきだに、海岸又は島嶼は、海洋の影響大にして、避暑避寒に適するに、此の海風陸風あるが故に、避暑の客は、特に之を喜ぶ。

雨(雪などを含む)

空氣の溫度、下降せんか、空氣中の水蒸氣、爰に凝

結し、雨等となりて、地上に落下す。其の降水量は、空氣の溫度の高低、水陸の分布、山脈の走向、海流の寒暖等によりて、各地、相同じからず。

我が國の氣候

緯度又は土地の高低等の關係上、各地の

氣候區々たり。殊に又、亞細亞大陸の影響を受くれども、概言

世界の最熱地は、一年平均攝氏の三十度を數へ、時に七十度以上に達す。又世界の最寒地は、一年平均氷點下二十度を數へ、時に氷點下七十度以下ることあり。然るに我が國にては、臺灣の南部も、一年平均二十五度に最高時たる八月中も平均二十八度に上らず。又南樺太も、一年平均五度を、最寒時たる二月中も平均氷點下十二度たるに止まる。

するに、四面海を環らして、概ね、海洋的氣候を帶び、寒暑中和を得たり。小笠原、琉球、臺灣の外は、貿易風を感じることなく、又夏季は東南季候風、冬季は西北季候風よく發達し、其の交代期たる春と秋とに暴風多く、殊に二百十日前後は、轉た天候を氣遣はしむ。春は、春

我が國には略して中央を走らぬ山脈ありて國土を太平洋に面し日本海に面し云ふ一を表日本と云ふ一を裏日本と云ふ

▲勝繼の作

裏日本は梅雨雷雨共に少なし

雨の少なき地方と多き地方とをくらべ其の原因を考ふべし

雨ありて、櫻海棠などに、一入の趣を添へ、夏は、東南季候風の爲、曇りの表日本と、晴れの裏日本とを作る。其の初夏は、梅雨(五月)蕭々として、挿秧を促がし、盛夏は、雷雨屢々去來して、夕立の雲は、外山の末越えて涼しく、残る松の聲かなの感あり。秋は、一般に晴天多きも、初秋には、大雨、暴風に伴ひて來る。冬は、西北季候風の爲、晴れの表日本と、曇りの裏日本とを作り、裏日本の積雪は、電柱を埋むる許りなり。雨量の多きは、温帯中、稀に見る處なれども、亦各地同じからず。臺灣の東岸、九州、四國、紀伊の南部、濃飛高原、北陸の沿岸は、雨量多くして、瀬戸内海附近、信濃以東の本州、北州の東部は、雨量少なし。殊に瀬戸内海は、晴天多くして、製鹽に適す。

第七節 天産

植物 熱帯は、樹木蕃茂すれども、寒帯は、灌木、蘚苔の外、植

物の發育せざる處多く、温帯には、有用植物多し。

動物 熱帯は、猛獸、毒蛇多く、寒帯は、馴鹿、白熊、海豹多し。又温帯は、有用家畜多きを常とす。礦物 世界は廣し。礦物の種類と、其の分量と、豈に限りあらんや。是れ等は、外國地理に於て詳記すべし。

我が國の天産 南部には、樟樹、榕樹、椰子、樹蘇鐵、芭蕉、鳳梨等の熱帯性植物よく育ち、北部には、蝦夷松、榎松、白楊等多く中部には、松、杉、檜などの用材多し。動物は、臺灣の水牛、琉球の飯匙倩、小笠原島の蠃龜を特種のものとし、又中部以北に牛、馬などの家畜、北部に、熊、馴鹿あり。而して寒暖二流によりて、生物を異にせることは、既に之を述べたり。礦物は、其の種類多く、殊に、石炭、銅、硫黃の産多し。されど、鐵、石油の産少なくして、年々、多大の輸入を仰ぎつゝあるは、豈に遺憾なしと

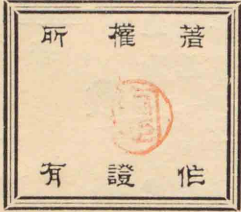
せんや。

綱要 明治地理 (終)

明治四十二年二月十日印刷
明治四十二年二月十五日發行

定價金參拾五錢

綱要明治地理(日本)



著者 六盟館編輯所
發行兼印刷者 東京市日本橋區鐵砲町三番地 六盟館
右代表者 杉本七百丸

東京市京橋區南傳馬町二丁目 目黒 甚七
東京市日本橋區鐵砲町 柳原 友吉
東京市日本橋區本石町二丁目 杉本 七百丸
長野縣長野市櫻枝町 西澤 喜太郎
新潟縣長岡市表四ノ町 目黒 十郎

發行所

大販賣所

東京市日本橋區鐵砲町三番地

合資會社 六盟館

(電話浪花二七六四番)
振替口座二二五〇番

各種農業學校及實業補習學校用書

六盟館編輯所編纂
實業明治讀本 卷七、八 全六册
 定價、一、二、三、四各金二十三錢 五、六各金廿五錢
 七八各金二十八錢 (教師用非賣品)

長谷部愛治先生共編
實業補習讀本 甲篇全二册
 乙篇全二册
 甲篇各金二十二錢 乙篇各金廿五錢

長谷部愛治先生編
女子讀本 甲篇全二册
 乙篇全二册
 甲篇各金二十二錢 乙篇各金廿五錢

六盟館編輯所編纂
算術新教科書 分本定價各廿五錢
 合本定價金五十錢

農學士 小倉延足先生
 農學士 今村猛雄先生
 農學士 鈴木敬策先生 著
農業教本 全十六册
 定價各金二十錢

● 作物通論(既刊)
 ● 普通作物篇
 ● 特用作物篇(既刊)
 ● 蔬菜栽培篇(既刊)
 ● 果樹栽培篇(既刊)
 ● 作物病害篇
 ● 作物病蟲篇(既刊)
 ● 農業氣象篇

● 土壤篇
 ● 肥料篇
 ● 農具篇
 ● 蠶桑篇
 ● 畜牧篇
 ● 植物大意
 ● 動物大意

農學博士 稻垣乙丙先生校訂
最新作物通論教科書 洋綴全一册
 定價金三十錢

農學博士 神戶昌平先生著
最新普通作物教科書 (新刊)
 洋綴全一册
 定價金三十五錢

農學博士 神戶昌平先生著
最新肥料教科書 (新刊)
 洋綴全一册
 定價金三十錢

農學博士 神戶昌平先生著
最新土壤教科書 (新刊)
 洋綴全一册
 定價金三十錢

農學博士 神戶昌平先生校訂
最新養畜教科書 (新刊)
 洋綴全一册
 定價金四十錢

農學博士 神戶昌平先生校訂
最新作物病蟲害教科書 洋綴全一册
 定價金四十錢

農學博士 神戶昌平先生著
最新養蠶教科書 洋綴全一册
 定價金三十錢

農學博士 神戶昌平先生著
植物生理學教本 洋綴全一册
 定價金三十錢

農學博士 神戶昌平先生著
植物生理學教本 洋綴全一册
 定價金三十錢



広島大学図書

2000054757

